

AIDS文化フォーラム in YOKOHAMA

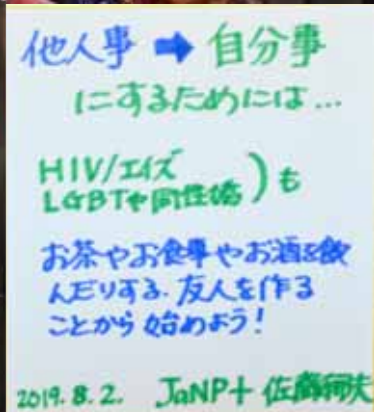
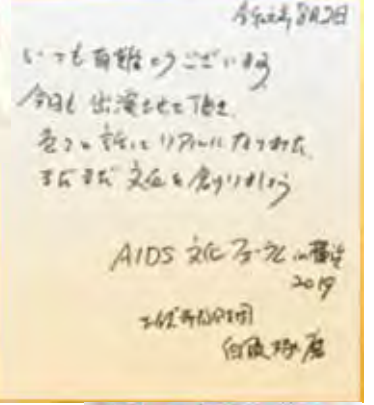
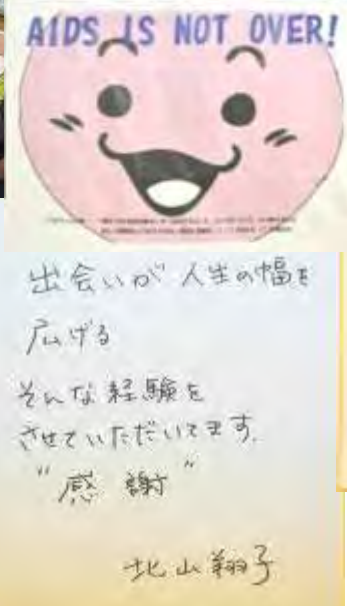
第26回 報告書

今年のテーマ

〈話す〉と〈リアル〉に!!



ボランティアオリエンテーション



名刺サイズのPRカード

AIDS文化フォーラム in YOKOHAMA

今年のテーマ <話す>と<リアル>に!!

開催日 2019 8/20→4日

開催時間 10:00-17:30 (最終日18:00)

開催場所 かながわ県民センター

参加自由 入場無料

<https://abf-yokohama.org> AIDS文化フォーラム in 横浜

1. プログラム一覧	・・・P 4
2. 開会式 組織委員長あいさつ	・・・P 6
3. 進化するAIDS文化フォーラム in 横浜	・・・P 6
4. オープニング「話してリアルになったこと」	・・・P 7
5. 発表プログラム	・・・P 8
6. すきまミニ講座(①～③)	・・・P27
7. 新聞記事	・・・P27
8. 展示プログラム	・・・P28
9. イベントボランティア	・・・P34
10. 交流プログラム	・・・P34
11. 全体会・閉会式	・・・P35
12. フォーラム全体集計表	・・・P36
13. AIDS文化フォーラム in 横浜 26回の歩み	・・・P38
14. 協賛・寄付	・・・P41
15. 協賛企業展示	・・・P41
16. 第26回AIDS文化フォーラムinを支えた人たち	・・・P42
17. AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会規約	・・・P43
18. 参加団体等名称・索引	・・・P44



AIDS文化フォーラム in 横浜とは？

1994年に横浜で開催された国際エイズ会議をきっかけに、市民の手で市民のために始まったフォーラムです。HIV/AIDSに関する様々な活動を行うNGO/NPO、学生、HIV/AIDSと共に生きる人々、行政、個人が集まり、発表・展示・交流を行っています。たくさんの方々の温かい想い・ご支援により、「手弁当」の市民フォーラムも今年で26回目を迎えました。



「文化」の2文字

なぜAIDS「文化」フォーラムなのか？それはフォーラムがHIV/AIDSを医療だけの問題としてとらえるのではなく、広く文化の問題としてとらえることに重きを置いているからです。セクシュアリティ、ジェンダー、セックス、若者、ドラッグ、学校、教育…私たちの生活＝「文化」とHIV/AIDSは深く結びついているのです。



報告書作成にあたって

フォーラム3日間の熱気を伝えたい！そんな思いから、報告書には来場者の声や会場の様子を伝える写真をふんだんに取り入れています。また、フォーラムでの出会いをきっかけに、それぞれの団体や個人がつながりを深め、活動が広がっていくという願いを込めて各団体の連絡先を掲載していますので、活用していただければ幸いです。

AIDS 文化フォーラム in 横浜

2019



プログラム

* 入場無料

テーマ: <話す>と<リアル>に!!

PWA/H・セクシュアリティ・LGBT・性 文化 国際 保健・医療・福祉 教育 若者・ネット 薬物 薬害・人権・ノーマライゼーション

プログラム内容をより深く理解していただくため、対象者を限定するものがあります。
(都合によりプログラムが変更になることがあります。最新情報はHPでご確認ください。)

事務局は1階		HIV/AIDSの基礎知識や「こんなこと聞いてもいいのかな?」にお応えします。 すきまミニ講座 by 山田雅子 (AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員) おさまりの時間だけと、上って大切な情報が入ります! (206会場まで 12:20~13:00)			
会場	10:00~12:00	13:00~15:00	15:30~17:30		
8月2日・金	2階ホール (260)	「マイノリティ」と「マジョリティ」 ~生きやすい世の中とは~ かづえちゃん(YouTuber) 宮崎豊久(インターネット専門家) 岩室神也(オフィスイベつむろ) 生きやすさの背景とは何かを一緒に考えます。 YouTube LIVE 配信予定	回復を応援する共生社会とは 松本敦彦・塚本聖一・新堂慎二・岩室神也 「共に生きる社会を」と言いつつ罪を償った人がまだまだ排除し続けられている社会ではないでしょうか。再チャレンジができる社会になるために何が求められているのでしょうか。薬物依存症の第一人者と、実際に薬物使用で刑に服した人々と共に考えます。	ネット時代のリアルコミュニケーションを語る Part2 北山翔子 かづえちゃん(YouTuber) 宮崎豊久(インターネット専門家) SNSはリアルではない? SNSで繋がるのかわからない? 令和時代のコミュニケーションを3人が語ります。	
	301 (90)	白阪琢磨 (エイズ予防財団理事長) 佐藤祐夫 (日本 HIV 陽性者ネットワーク・ジャンププラス スピーカー/同性婚訴訟東京原告)	神様がくれたHIV 北山翔子 HIVとともに生きていくとどのようなことが、当事者が事実をそのまま語ります。	横浜 AIDS 市民活動センターがやってくる! 横浜 AIDS 市民活動センター センターを見学し、夏休みの自由研究は何かができますか? フリースペースではセンターの書籍を楽しんでね! (16:30-17:30)	
	302 (30)	北山翔子 (神様がくれたHIV 著者) 岩室神也 (AIDS文化フォーラム in 横浜)	親子で考える教育プログラムその3 JOINT HEART 思いのまま感じたことを伝えるために腹話術を用いたコミュニケーション方法を分かりやすく応用する活動を行います。 (14:00~15:00)	あなたが気づかないだけで神様もゲイもいつもあなたのそばにいる 平良愛香 ゲイでキリスト教の牧師となった僕が、性の多様性・豊かさを語ります。歌も(みんなで?)歌います。	
	303 (60)	HIV/AIDSを他人ごとと思っている間は、共に生きることができないうえに、感染を予防することも難しくなってしまう事実があります。ではどうすればリアルに、自分ごとになるのでしょうか。それは HIV/AIDS について、当事者の方々と、実際に関わってきた方々と、そして仲間と話すことです。	知ってほしい HIV 検査のこと 佐野貴子(神奈川県衛生研究所微生物部) 豊澤沙央里(鎌倉保健福祉事務所保健士防課) 梶山祐輔(神奈川県健康危機管理課) 神奈川県が実施している無料・匿名の HIV 検査の流れや方法について詳しくご紹介します!	横浜ののちの電話の活動と傾聴について 社会福祉法人横浜ののちの電話 「いつでも、誰でも、どこからでも」年中無休24時間体制で困難を抱えた方と電話で寄り添うことを大切にしています。	
305 (60)	 	心に響く性教育 ~若者の現状と産婦人科医としての課題~ 遠見才希子 大学時代から全国 700 校以上で性教育を行い、見てきた性暴力、緊急避妊、中絶問題を中心にお話します。			

ネットワーキング・TEA パーティ
8月2日(金)17:45~18:45 1階展示場
ボランティア、参加団体、一般参加者の交流のための気軽なパーティです。無料・予約不要

会場	10:00~12:00	13:00~15:00	15:30~17:30	
8月3日・土	2階ホール (260)	HIV/AIDS になって何が悪い!?! ブルバンス(女装パフォーマンス) 長谷川博史 (JENP+理事) 岩室神也(厚木市立病院) HIV に感染しない方がいかに決まっています。しかし、感染してしまえば人になることも事実です。感染しない方がいいけど、感染してしまった人たちが前向きに生きるために何が必要なのでしょうか。	宗教とエイズ Part 14 ナセル永野(イスラム教) 平良愛香(日本キリスト教団川和教会牧師) 古川潤哉(浄土真宗本願寺派浄誓寺) 岩室神也(ヘルスプロモーション推進センター) 現代社会で宗教が持つ意味とは?キリスト教、イスラム教、仏教の方々に様々な角度から医師が切り込み、フォーラムでしか聞けない本音トーク。宗教がもたらせる「リアル」とは?	
	301 (90)	デジタル・SNS 時代の子育て 宮崎豊久(インターネット専門家) 子ども達がネットトラブルに巻き込まれないようにする子育てとは?心の発達からネットトラブルを考えます	恋愛しくじり先生 岡田ゆかり 泌尿器科女医が、自らの恋愛しくじり体験を元に、性教育や恋愛のあれこれについて語ります。	インターネットのアダルトサイト その現実に向ける 森林原人(AV 男優) 宮崎豊久(インターネット専門家) 現代 AV 男優と違法アダルトサイトの調査専門家がインターネットのアダルトサイトについて語ります。【R18】
	302 (30)	教室で使える! HIV/AIDS を伝えるワークショップアイデア (公財)横浜 YMCA ACT 「世界がもし 100 人の村だったら」を題材としたワークなど、授業や講座で楽しく・易しく学ぶアイデアを紹介	みんなで話そう! AIDS文化「本音ラバー」 かづえちゃん(YouTuber)サポートセンター 国籍・民族・言葉・文化を超えて、AIDSについてみんなと本音で語り合ってみませんか?	「自分を大切にするとってどんなこと?」 あなたの知らないからだの魅力 川島章代 世界にひとつ! かけがえのない大切なパートナー あなたの身体、魅力を知って自分を大好きになる!! (16:30~17:30)
	303 (30)	日本の妊娠はないものだらけ!...ってどういこと? #みんなのプロジェクト 福田和子 スウェーデン留学で気付いた日本の性の健康を守る環境はないものだらけ!の現実。なんでないの?って、なにがないの?なんでないの?を語ります。	にじ色ライフプランニング入門講座 NPO 法人 パープル・ハーツ HIV 陽性者の老後に備え、お金から終活までお一人さまや性的マイノリティの事情に立ったライフプラン講座。	エイズ対策 × アフリカ × 国際協力 斉藤肇 2年間の海外生活経験を紹介。国際協力や自分の生き方案、広く考える「きっかけ」を一緒に作る。

会場	10:00～12:00	13:00～15:00	15:30～17:30	
8月3日・土	304 (60)	感染者、患者の生活とソーシャルワーカーの役割 AIDS ネットワーク横浜 HIV 陽性者の生活課題やそれに対する支援について、病院のソーシャルワーカーの立場からお話します。	妊産婦への切れ目のない支援 AIDS ネットワーク横浜 児童虐待、育児放棄が増加中(神奈川県は2位)、HIV 感染妊婦も含めて、妊産婦への支援のあり方を考えます。	教育関係者にとってほしい 昭和 vs 平成 精華学園高等学校町田校 校長 心理カウンセラー 椎名雄一 昭和生まれと平成生まれの間にある分かり合えない価値観の違い。その違いを解消する方法をお伝えします。
	305 (60)	助産師として中学生に伝えてきた、生命と性感染症の話 渡辺ふみこ(JA 神奈川県厚生連伊勢原福同病院) 産婦人科で働く助産師の立場から、性感染症予防講演会で話してきたことや中学生の反応をお伝えします。	心に響く話をしよう 北山翔子(思春期保健指導者研究会) 講演などで話をするとき、心に響く話をしたいと思ふ人のためのミニ講座です。	看護師とコンドームソムリエの性トーク！ 星野貴泰とコンドームソムリエ Ai あなたはコンドームをどうやって選ぶ？コンドームをもっと楽しく使えるようになる性のお話、お楽しみに！

ネットワーキングパーティ (誰でも参加できる、参加者が、参加団体同士がつながる、ひろがる、わかちあう場)

8月3日(土)18:00～ 中華料理屋 迎珍 内容:横浜ならではの中華料理を食べながら交流

有料・要予約 成人 4,200 円 未成年 3,200 円 定員:55 名(参加希望者は 8/2～8/3 に IF 事務局へ)



会場	10:00～12:00	13:00～15:00	15:15～16:00	
8月4日・日	2階ホール (260)	本音で性について<話す>と<リアル>に！！ 森林原人(AV 男優) しじみ(女優/元 AV 女優 持田茜) 古川潤哉(俳優) 岩室神也(泌尿器科医) 性について話すことができますタブーになったからかコンドームを知らない高校生は当たり前。一方で AV を教科書にする若者もいる変な時代を検証。【R18】	特別企画 夜回り先生 水谷修 夜回りを通して、夜の世界に生きる若者たちと何を話し、どのようなリアルを見てきたのか。夜回り先生が熱く語ります。若者のリアルと本音で向き合った、「生」のリアルがメッセージ。	2階ホール 全体会・閉会式 次のつながりのへ、AIDS 文化フォーラム AIDS 文化フォーラムを支えてくれた人たち AIDS 文化フォーラム in 横浜 AIDS 文化フォーラム in NAGOYA AIDS 文化フォーラム in 京都 AIDS 文化フォーラム in 陸前高田 AIDS 文化フォーラム in 佐賀
	301 (90)	成長するための傾聴講座 精華学園高等学校町田校 校長 心理カウンセラー 椎名雄一 「我慢する」、「聞いてあげる」という上から目線の関わりではなく、お互いが成長できる傾聴の方法を紹介。	性の価値観(AV から家庭教育まで) 性を考える AV 男優有志の会 日本の性が現状のように背德的、閉鎖的、保守的になった原因は AV だけではなく家庭にもあるのではないかと。【R18】	
	302 (30)	女性と性感染症～性感染症と妊娠出産との関係 平成 31 年度厚労科研究分担研究「HIV をはじめとする性感染症と妊娠に関する情報の普及啓発法の開発」班 HIV や急増している梅毒などについて、女性に焦点を当ててお話しします。HIV と妊娠出産の情報もお伝えします。(11:00-12:00)	「心地よい」からだのタッチを考えてみよう 東京都開業助産師・有馬祐子 あなたが手のひらで、心地良く「ふれる」ことが、心とからだのリラックスにつながることをお伝えします。	
	304 (60)	ボランティアの一步 ンタイ 横浜 YMCA タイのエイズや人身取引等の現場で聞いたリアルな声、人々との出会い、文化体験を報告します。	お坊さんが行う性教育授業 ver.9 古川潤哉(浄土真宗本願寺派浄誓寺) 「生と性と死を考える」中学生向けに実施している授業のご紹介と模範授業を実施。	2階ホール
	305 (60)	私たちは必ず回復する ナルコティクスアノニマス 私たちは薬物依存症の当事者団体です。ナルコティクスアノニマスとは何か？そして私たちの体験談をします。	薬害エイズを生み出したもの —薬害エイズと 731 部隊の関係 薬害エイズを考える山の手の会 神奈川県立薬学部の常務理事 常石 一先生のお話しをお聞きして薬害エイズを生み出したものを薬害被害者と考えます。	2階ホール

【展示場出展団体】

- ◇アジアの女性と子どもネットワーク ◇カトリック中央協議会 HIV/AIDS デスク ◇神奈川県健康危機管理課 ◇神奈川県ユニセフ協会 ◇公益財団法人横浜 YMCA
- ◇ジェックス株式会社 ◇ナルコティクスアノニマス ◇横浜 AIDS 市民活動センター ◇ ATAC&ABCD in NARA ◇NPO 法人 HIV と人権・情報センター

横浜雙葉学園 茶道部 8月4日(日)



【助成金】公益財団法人エイズ予防財団(平成 31 年度エイズ予防財団助成事業)→広がるネットワークを評価していただきました。

【特別協賛】ワイズメンズクラブ国際協会東日本区

【HIV 陽性者登壇支援寄付金】ゾーブヘルスケア株式会社(対象プログラムは **人々人** 印で表記)

【協賛・寄付】ゾーブヘルスケア株式会社、神奈川県化粧品工業協会、神奈川県製薬協会、キリアド・サイエンス株式会社、ジェックス株式会社、

マシセンファーマ株式会社、MSD 株式会社

物品:株式会社伊藤園、東京キリンビバレッジサービス株式会社、株式会社ジャパンビバレッジセントラル



開会式・組織委員長あいさつ

多くの方々が第26回目のAIDS文化フォーラム in 横浜にご参加いただきましたことに感謝します。この夏、参議院選挙のさなかに首相がハンセン病元患者の家族の方々に直接謝罪をするというニュースが流れました。感染症のなかでもハンセン病は極めて厳しい差別と偏見を受けた病で、患者は法律、国からも差別され排除されたという歴史があります。患者家族への社会の差別や排除も厳しかったため、家族の中にハンセン病の患者がいた場合、家族の戸籍からその方を抜いて家族にいなかったというようにするといったことも起こっていました。人々の心のなかにあった差別や偏見が国の制度や法律になっていったという歴史が100年以上も続いていたのです。

HIV/AIDSも同様の道を辿っているのではと危惧される時代がありました。26年前の1994年に第10回国際エイズ会議が横浜で開催された際、世界中からHIV/AIDSの当事者や関係者がいらっしゃいましたが、ホテルやレストランが入場を拒否する、または受け入れについて非常に困難を感じたということがあります。

いま、そんなことはないでしょうか。ひょっとしたら、私たちの心のなかに、HIV/AIDSに限らず、異質なものを排除するような、受け止めることができないという気持ちがあるのではないか。AIDS文化フォーラム in 横浜はHIV/AIDSだけではなく、孤立のなかにある、あるいは差別や偏見の只中にある方たちの声を聞きながら、私たちの問題として考え続けてきた場でもあります。

今回は「話す」とリアルに！！というテーマで開催します。今まで他人ごとだと思っていたことが、話をきいたり、出会ったりすることで、そのことが自分の問題としてリアルに認識できるようになるのではないかと思います。話すとリアルになるということは、話さないリアルにならないということでもあります。HIV/AIDSがあたかも存在していないかのような社会的雰囲気の中で、話をすることも少なくなり、さまざまな場面で少数者が社会の中に存在していないかのような前提のもとで会話が続きます。「異質なものを排除する気持ち」が社会の中に広がりつつあるのかもしれないということに危惧の念を強く抱く時代です。「マイノリティーの問題はマイノリティーを生み出す側の問題である」とも考えられます。AIDS文化フォーラム in 横浜は26年間、新たな切り口で歩んできましたが、今回も性的少数者の方々、あるいは依存症の方々など、様々な立場にある当事者の声を聞き、自分や社会の問題として捉えて、ともに生きている、ともに生きていける社会・文化をどのようにつくっていくかということを考え続けていきたいと思えます。皆様とともにつくっていききたいと思えます。

AIDS文化フォーラム in 横浜は開始当初から、すべて手弁当で歩み続けています。フォーラムに集う多くの団体、個人、企業の方々が手弁当で作上げてきました。参加者の皆様も「ただ参加する」だけではなく、「ともにこのAIDS文化フォーラム in 横浜をつくっていく」という思いでご参加いただければ嬉しく思います。

組織委員長 田口 努



進化するAIDS文化フォーラム in 横浜

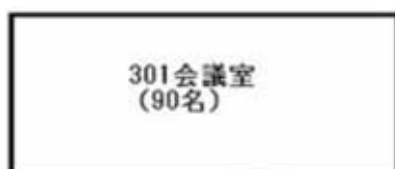
AIDS文化フォーラム in 横浜は3日間の開会を告げたあと、組織委員長挨拶、組織委員の挨拶に続きボランティア代表前田りくおさんの挨拶があり、今年のテーマ「話すとリアルに」を皆さんとわかち合うことを願って開会式が行われました。今年初の試みでオープニング企画の別室への中継や、動画配信などAIDS文化フォーラムin横浜はこれからも進化を止めません。



閉会式での
ボランティア挨拶



ホール：満員御礼



ライブ配信

同時中継



オープニング

話してリアルになったこと

HIV/AIDSだけではなく、いろいろなことについて

～ <話す>の意味は～ ～ <リアル>とは～

登壇：白阪琢磨（エイズ予防財団理事長）

佐藤郁夫（日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラススピーカー／同性婚訴訟東京原告）

北山翔子（神様がくれたHIV著者）

司会：岩室紳也（AIDS文化フォーラム in 横浜）

白阪琢磨先生 北山翔子さん 佐藤郁夫さんをゲストに迎え岩室紳也先生の司会で「話してリアルになったこと」というテーマでそれぞれの立場やそれぞれの視点から実際に体験したことやその時の思いなどが語られました。

佐藤さんは、自身のHIV感染について、「最初は自分には関係のない海外のことと捉えていたが、もともと慢性疾患で通院をしていたので自身のからだに起きたことへの受け入れは割とスムーズだった」と笑顔で振り返りました。「自主的に検査を受けた人と突然告知を受ける人とは心の準備が違う。その後の治療への向き合い方にも大きな違いがある」と話す白阪医師も「準備性は大事、心の準備はとても大切」となづいていました。

同じくHIV陽性者である北山さんは感染がわかった時のことを「自分の行動で感染したということへの葛藤が大きかった。保健師でありながら感染したということが受け入れられず、折り合いをつけるのが難しかった。他者から責められることはなかったが自分で自分を責めてしまっていた」と振り返っていました。

お二人のHIV感染との向き合い方が語られ、会場が静まり返っていると、白阪先生と岩室先生は「医者も病気になるし、糖尿病の医師もたくさんいるよね」「そうそう生活習慣病の医師もたくさん。人間は模範解答で生きていくなんで無理」と言い、会場をがむ場面もありました。現在血液透析を週3回受けている佐藤さんが「大変では？」と問われると、「いや、かえって透析を受ける前より体が楽になった」と話されたことに対して、「医療者は先入観をもって対応してはいけないし、HIV/AIDSに限らず当事者の声にもっと耳を傾ける必要がある」と岩室先生が語られていました。

佐藤さんは、同性婚裁判で目指すのは社会的認知では得られない、法による同性婚パートナー間での子育て、親権のこと、相続のことなど視野の広さと長い人生を見渡した上で幸せに生きることを願ってのことと話されました。

最後にフロアからの質問に対し「結婚が幸せ、子どもをもつことが幸せ…とひとつの価値基準で決めつけるのではなく、いろいろな価値観の人がいろいろな形の生き方を選択できる社会が本当にみんなが幸せになれるのではないか」と結び、このセッションが終わりました。



佐藤郁夫さん

来場者感想：

- 佐藤さんがおっしゃった、親がマイノリティに対して「自分の子どもが幸せになれないような気持ちになって受け入れられないんじゃないか」が今日一番のリアルです。（神奈川県 30代 教育関係）
- 大学生の時に北山さんの本を読んでいました。今日、実際にお話を聞いて感激でした。（千葉県 30代 会社員）
- 同性婚を認めることで皆が幸せになる社会を作れると思う。（神奈川県 60代 保健医療福祉関係）
- 世の中の流れとして“しょうがないじゃない”っていう寛容さがないような気がします。ミスしちゃいけないとか、失敗してはいけないとか。（神奈川県 40代 保健医療福祉関係）
- 準備性の大切さを知った。相手の気持ちを知りたいとき、関心を持って言葉の選択や伝える場面も大切だと思った。（神奈川県 30代 学生）
- 初めて実際にHIV感染者や同性愛者の方々の話を聞き、考えつかなかった思いや経験、愛の形は様々あることも考えることができて良かったです。（神奈川県 20代 学生）
- テーマの通り、AIDS、LGBTを通して差別の形がよりリアルに見えてきたように思います。日本社会の問題がリアルに感じられました。（鹿児島県 30代 教育関係）
- 301でのLive中継はありがたかったです。わがままを言うと、音が聞こえにくかったので、音量を調整していただきました。（大阪府 20代 会社員）



白阪琢磨先生

発表プログラム

「マイノリティ」と「マジョリティ」 ～生きやすい世の中とは～

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

登壇：YouTuber かずえちゃん、医師 岩室紳也、インターネット専門家 宮崎豊久

内容：AIDS文化フォーラム in 横浜では初めてのYouTubeライブ配信となりました。会場にいるたくさんの人に加えて、100人近くの人に同時に会場と一体となって参加していただけました。

多様性を認め合える社会と言われてはいますが、それではなぜ「マイノリティとマジョリティ」という言葉で分けられてしまうのか？そんな疑問から始まった企画でした。3人とも海外生活を経験しており、海外では日本では感じる事ができない生きやすさがあるという意見が一致しました。その根底にあるものはなにか？3人がそれぞれの経験からテーマについて語っています。ライブ配信はアーカイブされ、いつでも見ることができます。ぜひご覧ください。 https://youtu.be/_1yZghPDtLA

来場者感想：

- マイノリティというのは遠い存在の人だと思ったけど、身近なことだと感じました
- 今までと違ったものの見方ができるようになりました
- 同性愛、AIDSだけでなく、社会全体に共通する課題だと思った



連絡先：宮崎豊久 E-mail:miyazaki.toyohisa@gmail.com

かずえちゃん公式ホームページ URL:<https://kazuechan.com/>

岩室紳也 紳也's HP: URL:<http://iwamuro.jp/>



神様がくれたHIV

主催：北山翔子

「神様がくれたHIV」の著者であり、HIV感染の当事者。

内容：アフリカでボランティアをしていた時に受けた抗体検査でHIVが陽性と判明。その後、どのように現実を受け止め、生きてきたのかということをお話しました。毎年、同じ内容のお話をしていますが、今年は参加者が例年より多く、当事者の話を聞くのが初めてという方も多かったようです。聞かれた方が、そのままの感性で何かを感じ、これから生きていく上で何らかのヒントになればと思っています。

来場者感想：

- とても心に残るお話でした。HIVについて、身近に感じる事ができました。今までは、他人事でしたが、誰でも可能性があると思いました。
- 若い人たちに聞いてもらいたいと思いました。
- 色々な苦労があることは、HIV感染者だけではない。人それぞれ色々な人生を生きていると感じました。

連絡先：北山翔子 E-mail:jasmin703aladdin@gmail.com

(講演依頼は紳也'sホームページから URL:<http://iwamuro.jp/>)



親子で考える教育プログラムその3

主催：JOINT & HEART

腹話術を用いてエイズの教育と啓発を活動しております。

内容：テーマ

- ①親子で考える教育プログラム 雑談力で相手との距離を縮めよう。無人島SOS・雑談ワーク・雑談のポイント
- ②SOS「船に乗って旅行中に大きな嵐が来て船が粉々に壊れてしまった。島には食べ物と水はありますが他には何もありません。島で生き残っていくためにはどんなものが必要でしょうか」
- ③品物：例えばナイフとフォーク
- ④自分の優先順位
- ⑤選んだ理由
- ⑥雑談のうまい人と下手な人との違い：下手な人は自分が話そうとする。情報を知っているふりをする。相違した意見を否定する。
- ⑦まとめ：中身がない事に意味がある。結論はいらない。さくっと切り上げよう。



連絡先：JOINT & HEART 〒630-0121奈良県生駒市北大和2-30-5 TEL:0743-78-9841

知ってほしい HIV検査のこと

主催：神奈川県健康危機管理課

講師：佐野貴子（神奈川県衛生研究所）、農澤沙央里（鎌倉保健福祉事務所）、村岡広代、梶山祐輔（神奈川県健康危機管理課）

内容：神奈川県内では、保健所や即日検査センターなど、様々な場所で無料・匿名のHIV検査を実施しています。本講演では、HIV検査のことをもっと知っていただくことを目的として、HIV検査で使用している試薬や検査方法、検査体制などを紹介するとともに、検査を受けるときの実際の流れについて、鎌倉保健福祉事務所での検査を例に、電話予約から受付、問診、採血、結果説明までのそれぞれのステップをロールプレイ形式で実演しました。

神奈川県における年間のHIV/AIDSの報告数のうち、約3割は自身がHIVに感染していることを知らないままAIDSを発症しています。感染に気付くのが遅ければ遅いほど、AIDSを発症するリスクが高くなるだけでなく、知らないうちにパートナーに移してしまう危険があります。早期発見、早期治療に繋げるためにも、少しでも不安なことがあれば、検査を受けていただきたいと思います。

神奈川県のホームページでは、県内の検査機関の情報をまとめて掲載していますので、HIV検査を受ける際はご活用ください。

来場者感想：

- 他県の検査の状況が分かった。参考にします。ありがとうございました。

連絡先：神奈川県健康医療局保健医療部健康危機管理課感染症対策グループ

〒231-8588 横浜市中区日本大通1

TEL:045-210-4793 FAX:045-633-3770

E-mail:kenzou-kansen@pref.kanagawa.jp

URL：<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/ga4/cnt/f6943/index.html>



心に響く性教育 ～若者の現状と産婦人科医としての課題～

主催：遠見才希子 産婦人科医 筑波大学大学院社会精神保健学博士課程

内容：大学時代より全国700ヶ所以上で中高生向けの性教育講演会を行い、気づいた性暴力や、緊急避妊、人工妊娠中絶などの問題点を産婦人科医としての視点をふまえて発表した。

来場者感想：

- 多くの知識を知ること、体験に基づいた話を聴くことができ自分の仕事につなげていきたいと思いました。(神奈川県 40代)
- 薬物依存の講演でも「薬物ぜったいダメ」と言うよりも心によりそい、人とのつながり、信頼できる大人を見つけて、という内容がありましたが、性教育にも「人とのつながり」「信頼される大人になりたい」ということが大切だということに改めて気づかされました。(神奈川県 40代)
- 当事者意識を持たなければならないと思った。これをもっと身の回りの人たちに伝えたい。(神奈川県 10代)
- 中絶に関する医療がこんなにも立ち遅れていることを初めて知った。娘が将来幸せに生きていけるように日頃から性についてオープンに話し、コミュニケーション能力を育てていきたいと思った。話を聞いていて何度か泣きそうになりました。(神奈川県 30代)



連絡先：遠見才希子 E-mail:emmskk@yahoo.co.jp URL:https://ameblo.jp/emmskk/

回復を応援する共生社会とは

主催：岩室紳也 (AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員)

松本俊彦 (国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部部長)

登壇：塚本堅一 (元NHKアナウンサー) 新堂慎二 (医師：仮名：ニックネーム：ピース)

内容：薬物使用で逮捕経験がある二人が主治医と共に登壇。NHKのアナウンサーだった塚本さんと医師の新堂さんからご自身の使用経験やゲイというセクシュアリティについて率直に話していただきました。初めてドラッグを勧めてきた人は自分の存在を認めてくれる、すごく気を使ってくれる、嫌われたくないという思いになった人だった。ラッシュはすごく流通していたので、「悪」や「ドラッグ」という認識がなかった。人間はアルコールを含め自然界にある物から有効成分を抽出、精製、合成した薬物を使う動物であり、薬物の良い部分と悪い部分をきちんと教え、薬物を憎んでも、薬物を使う人を憎み排除するような教育はおかしい。なぜなら、助けてくれる人がいない人が薬物に助けを求めているというリアルなお話を伺うことができました。



来場者感想：

- 将来医療に携わる人間として薬物依存症に対する考え方が変わった。「だめ、絶対」ではなく、やってしまった後にどうサポートして社会復帰できるようにするかが大事だと学びました。(神奈川県 20代 学生)
- 「あなたは何がしたいの？」と聞いてもらえてうれしかった」という言葉は私のところに突き刺さりました。息子に聞いたことがなかったので聞いてみようと思った。(群馬県 50代 保健医療福祉関係)
- ピース先生、素敵なドクターになられると思います。生きていってくださってありがとうございます。これからもいろいろ苦しむ人に寄り添える強いドクターになってください。ここから応援しています。(神奈川県 60代)



連絡先：岩室紳也 紳也's HP: URL:http://iwamuro.jp/

ネット時代のリアルコミュニケーションを語る Part2

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

発表：YouTuber かずえちゃん、神様がくれたHIV著者 北山翔子、インターネット専門家 宮崎豊久

内容：今年はネット時代のリアルコミュニケーション。それぞれの仕事から見える、現代社会のコミュニケーションを考察しました。全体的に意見が一致したのは、社会が静かになったということ。学校の子どもたちもなかなか意見を言わない。相談もできない。弱音もはけない。今まで、これらは子どもたちができないという視点でしたが、社会が意見を聞かない、相談させない、弱音をはかせない、そんな雰囲気になっていないでしょうか。子どもたちは、大人の好む意見を探し、相談せずいい子でいて、我慢することを覚えます。

Communication (コミュニケーション)の語源は、諸説ありますが、ラテン語のCommunicatio (コムニカチオ)と言われていています。その意味はわかちあうこと、共有すること。大人の視点だと、子どものためにあれこれ指示して保護してしまいがちですが、子どもの視点で考えると、それがとても苦しいことに感じることがあります。親子関係や、先生・生徒の関係だとなんか保護の視点になってしまいます。それが、なかなかできないのが現実ですが、社会の受け皿としてトークをした3人はそれぞれの立場で、居場所作りをどのように行っているかをお話しました。



来場者感想：

- コミュニケーションについてこれだけ考えたのははじめてでした。
- とても楽な気持ちになりました。ありがとうございます。
- 会場全体でわちあひ共有できたと思います。
- ネットで知り合った人と会っちゃダメという教育に違和感があったのでとてもためになりました。

連絡先：北山翔子 E-mail: jasmin703aladdin@gmail.com 宮崎豊久 E-mail: miyazaki.toyohisa@gmail.com
かずえちゃん公式ホームページ URL: <https://kazuechan.com/>

横浜AIDS市民活動センターがやってくる！

主催：横浜AIDS市民活動センター

エイズについて考え行動する皆さんを応援する横浜市の施設です。2010年より(公財)横浜YMCAが活動を受託しています。

内容：横浜AIDS市民活動センターは関内駅から徒歩1分のところにありますが、行く機会がないとの声に奮起！センターまるごとかながわ県民センターに出張しました。センターに貼ってある様々な1か月ごとのニュース、HIV/エイズの最新の情報「U=U」、発表されたばかりの世界エイズデーのテーマ「UPDATE！話そう、HIV/エイズのとなりで～検査・治療・支援～」や当事者の支援先の紹介からLGBTQの支援やイベント情報、はたまたデートDVや性暴力やハラスメントにいたるまで、皆さんに役に立つ情報をお届けしました。また書籍にいたっては、普段見ることがない教科書をはじめ、新着の絵本から専門書まで手に取ってもらえ、「秋になったら、行きますね」の声をいただきました。お待ちしております！

来場者感想：

- 本とか普段見ないので新鮮でした。教科書など書籍をじっくり見ることができた。(20代 学生)
- 看護師として、性暴力対応するための勉強の資料があった。(20代 保健医療福祉関係)
- 市の施設だと知らなかった。(10代 学生)

連絡先：横浜AIDS市民活動センター

〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39尾上町ビル9F

TEL: 045-650-5421 FAX: 045-650-5422

E-mail: info@yaaic.gr.jp URL: <http://www.yaaic.gr.jp>



あなたが気づかないだけで神様もゲイもいつもあなたのそばにいる

主催：平良愛香

内容：自著「あなたが気づかないだけで神様もゲイもいつもあなたのそばにいる」(2017年、学研プラス)を紹介し、同タイトルでの講演をしました。

効率や生産性のみを優先するときに生ずる「線引き」。その線引きの中で苦しめられたり、排除されたりしている存在に気づくことの大切さを語った後に、男性同性愛者として苦しんだり楽しんだりしてきた自分史(5段階のカミングアウト)を紹介、それから性の多様性についてのレクチャー、さらに、「マイノリティであっても差別者になりうる」という事実にも触れることができました。

「性の多様性について初めて学んだ」「自分の中にある偏見に気づいた」「知っているつもりだったが、自分の中に男女二分法がまだあることに気づいた」といったセクシュアリティについての気づきだけでなく、「話すリアルになる、本当にそう思った」「他者を大切にする、傾聴する、受け入れることの大切さを学べた」といったコメントがあり、やはり本で読むだけでなく、実際に声を聞くこと、声を発する事の重要性を認識しています。最後にみんなで「わたしらしく生きよう」(平良自作)を歌って会を閉じました。



連絡先：平良愛香 日本キリスト教団川和教会
〒224-0057 横浜市都筑区川和町1742
TEL:045-482-4464 FAX:045-479-2387
E-mail:kawawachurch@aqua.plala.or.jp
URL:https://church.ne.jp/kawawa/

横浜いのちの電話の活動と傾聴について

主催：社会福祉法人横浜いのちの電話

辛い気持ちや様々な悩みのある人の隣人として、年中無休24時間の電話で、ボランティアの相談員がおききしています。

内容：第4回(1997年)以来の久しぶりの登場です。過去3回の講座では、当時、横浜いのちの電話で実施していた「エイズ悩みの相談」に関連したロールプレイやパネルディスカッションを行いました。今回は「横浜いのちの電話と傾聴」をテーマとして、参加していただいた方がいのちの電話のどのようなことに関心をもっていたのかを中心にして、改めていのちの電話の活動内容を話しました。引き続き、参加者がそれぞれ3人のグループに分かれ、ロールプレイを行いました。ロールプレイは聴き方の訓練ですが、AIDS文化フォーラムにおいて、心の面から参加した今回の活動は、次のアンケートにあるように好評だったと考えています。

来場者感想：

- 聴くことの大切さを根本から考えることができた。(神奈川県 40代 教育関係)
- 世代のギャップをこえて、話ができよかった。(神奈川県 60代 保健医療福祉関係)
- 横浜いのちの電話の夜間の電話量はどのくらいなのか、大変な仕事と感じた。(北海道 50代 保健医療福祉関係)

連絡先：社会福祉法人横浜いのちの電話
〒240-8691 横浜市保土ヶ谷郵便局私書箱32号
TEL:045-333-6163
FAX:045-332-5673
E-mail:yind6163@gmail.com



性犯罪に走る人、走らない人の違い

主催：岩室紳也（ヘルスプロモーション推進センター）

内容：性犯罪に走る人に対して、薬物使用者と同じく「ダメ絶対」と言っても犯罪は繰り返されます。その原因は多くの人々が「犯罪者が悪いので厳罰に処せばいい」と考え、それ以上根本的なところや、社会に蔓延している誰もが抱えているリスクに思いを寄せられないからではないでしょうか。アダルトビデオでは「痴漢もの」や「レイプもの」が人気ですが、それらに影響を受ける人と、所詮作り物であり実生活に持ち込むものではないと考えられる人の違いが問われています。「自己実現」がトップに掲げられている欲求の5段階説が誤読で、マズローは人が必要としていることを階層化し、その最上位に「できることの具現化」が必要としています。性犯罪は人が必要としているつながり・所属・承認などが欠落した結果と考えられます。



来場者感想：

- 話の内容がずれている。キレイごとばかり。本当に絆を育てたくてもできない人もいる。(神奈川県 20代 学生)
- 子ども達につながるの大切さを性教育、思春期教育の中で伝えているのですが、それに異を唱える人もたくさんいます。(50代 保健医療福祉関係)
- ものすごく納得です。(神奈川県 50代 自営業)
- 失敗することがすごく恥ずかしく、新しいことを行うのが苦手でした。しかし、失敗経験が大切だと気づくことができました。(神奈川県 10代 学生)



連絡先：岩室紳也 紳也's HP: URL:<http://iwamuro.jp/>

デジタル・SNS時代の子育て

主催：インターネット専門家 宮崎豊久

内容：学校を回って子どもたちのインターネット利用をお話していると、先生や保護者の方の多くは、子どもがインターネットを使うと、見えないところで何が起きているか不安だと言われます。また、ゲームやSNSをやり始めると、勉強ができなくなってしまっていて困っていると相談を受けます。しかし、時代によって課題に挙がる娯楽やサービスの内容は異なるものの、子どもの発育に関する課題は変わらないことが多くあります。

虐待はもちろんしてはいけないことですが、誰でも虐待をする可能性があることを前提にお話を進めました。親はしつけのつもり。でも子どもはどのように感じているかは子どもの気持ちになってみないとわかりません。

このセッションは、ワークショップ形式で進めて、実際に起きた子どものトラブルについて、保護者の立場でどのように接するか。子どもどもの立場ではどのように接してもらいたいかを、グループで考えながら親の視点と子どもの視点の解離を体験していただきました。テーマから想像していた内容と異なったが、いつの時代も子育てに必要な考えは変わらないことがわかったという感想を多くいただきました。

来場者感想：

- 起こってしまったことだけに目を向けるのではなく、それまでの背景に目を向ける重要性がわかりました。
- ネット依存の子供達と接しています。いろいろと参考になりました。
- グループワークで、親の立場、子供の立場を入れ替えて、どちらの立場からも考えられたのが良かったです。
- 依存症は他人事にしておきたい問題でした。でも自分にも起こる可能性があることを知って、他人事とは思えなくなりました。



連絡先：宮崎豊久 E-mail:miyazaki.toyohisa@gmail.com

教室で使える！ HIV/AIDSを伝えるワークショップアイデア

主催：横浜YMCA ACT

語学と国際交流に特化した、横浜駅が最寄りのYMCA。教育機関・企業へ出向いての英語レッスンやHIV/AIDS啓発授業も行います。

内容：私たちは年に数校から依頼を受け、中学生を対象に「HIV/AIDSや性感染症予防を伝える啓発授業」を実施しています。1クラス対象と学年全体対象の2パターンを紹介し、実際の授業経験から得たポイントや効果的なアイデア等を伝えました。授業の流れを伝えた他、実際のアクティビティを体験してもらいました。色紙入りのコップを使い参加者同士で混ぜ合い、一人が持っていたHIVがいかに広がるかを知るシミュレーションの他、「世界がもし100人の村だったら」(開発教育協会教材)を基にしたAIDSバージョンのワークショップでは、HIV感染者の男女比や大陸別の感染者数等に分かれて、視覚的に体感してもらいました。

参加者の中には看護学校の先生、助産師さん他がいらっしゃり私たちが出前授業で伺えない所でも、今回のアイデアを皆様方に使っていただき、実施される方々がやりやすく、正しい知識が広がることを願います。

実際に授業を受け持っているが講義形式になりがちなので、ワークショップのやり方を知りたかったなど、メモを取りながら参加している方々がほとんどで、具体的なものを求めている方が参加してくださったことも嬉しいことでした。



連絡先：(公財)横浜YMCA ACT

〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-25-1 YS西口ビル2F

TEL:045-316-1881 FAX:045-314-6805

E-mail:li_info@yokohamaymca.org

URL:<https://language.yokohamaymca.org/english/school/act/> 文責：平野絹絵

日本の避妊はないものだらけ！...ってどういうこと？

主催：#なんでないのプロジェクト

日本でも特に若い人が当たり前でセクシャルヘルスを守れる社会を目指し活動しています。

内容：今回のAIDS文化フォーラム in 横浜は「<話す>と<リアル>に！！」がテーマということで、日頃本プロジェクトで訴えている、日本の中でセクシャルヘルスを守ることがいかに難しいか、守るにはなにがもっと必要か、実際に困っている方のメッセージも交えながら直にお伝えすることでより自分ごとに、よりリアルに感じ取って頂けたらとの思いでお話させていただいた。当日は立ち見が出る程多くの方にお越し頂き、またAIDS文化フォーラムという場だからこそ初めてお聞きくださった方も多かったと見えて、新たな仲間を増やせたような気がして大変に嬉しかった。実際に頂いた感想を拝読しても、現状に憤る声や、こう変わってほしいという積極的・主体的なお言葉が多く、まずは自分ごととして捉えてご自身の経験や思いを残してくださった方が多かったように見え、何よりだった。去年は体調不良により断腸の思いで欠席となったが、今年はこうして大勢の方々とともにAIDS文化フォーラムでの時を共有させて頂けたことに、心から感謝申し上げたい。

連絡先：#なんでないのプロジェクト

E-mail:nandenainohinin@gmail.com

URL:<https://www.nandenaino.com>



感染者・患者の生活とソーシャルワーカーの役割

主催：認定NPO法人 AIDSネットワーク横浜

講師：友田 安政・瀬尾 緑（横浜市大付属病院 地域連携課 S.W.）

1993年設立。電話相談、出前講座、イベント開催など、広く一般市民に対してHIV、AIDSの啓発、相談活動を展開。文化フォーラムには1回目から参加。

内容：HIV陽性者に対する差別や偏見は以前に比べ解消されつつあるが、今も「陽性者」である事による「社会的な生きづらさ」は存在する。それらが通院継続を妨げる可能性がある為、早期の面接を心がけ、医療費の実際、社会福祉制度、プライバシー漏洩に関する対応などの情報を提供することにより安定した通院を継続する事が重要。また「疾患や治療を正しく理解しているか」、「プライバシーに関する配慮が必要か」、「心理的な支えはあるか、支援は必要か」等も大切。制度上の実際、患者との対応の実際を、現場にいるお二人からお話しいただいた。

来場者感想：

- 日ごろ、SW(ソーシャルワーカー)と患者間の通訳もするので分かっていたつもりでしたが、今日改めて患者サポートのお話を聞き、患者の不安、SWが伝えたいことがよく理解できました。(医療通訳)
- 事例を交えながらのお話でしたので、とても分かりやすく勉強になりました。スライドを配布いただき、メモもとやすかったです。またぜひお話を伺いたいと思いました。(教育関係)
- 今後、HIV患者との関わりに役立てたいと思いました。(医療関係)

連絡先：認定NPO法人 AIDSネットワーク横浜
〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39尾上町ビル9F 横浜AIDS市民活動センター内
TEL:045-201-8808 FAX:045-20-8809
E-mail: any@netpro.ne.jp
URL: <http://www.netpro.ne.jp/~any/>



助産師として中高生に伝えてきた、生命と性感染症の話

主催：神奈川県健康危機管理課

講師：渡辺ふみこ（JA神奈川県厚生連伊勢原協同病院）

内容：小中高生を対象として実施している青少年エイズ・性感染症予防講演会にて、多数の講演実績を持つ渡辺氏より、助産師として実際に現場で携わった事例を交えながら、中高生に向けた性教育についてお話しいただきました。性感染症や望まない妊娠を防ぐためには、自分自身のことを大切な存在だと考えることが第一歩です。

来場者感想：

- 中学生の子供がいます。家庭でも伝えていきたいと思いました。ありがとうございました。
- 経験豊富な講師だからこそ、伝えられる内容だと思いました。現場の話を使って話すと、中高生に伝わりやすいと思いました。
- “性教育”って、性行為の話や性感染症の話だけだと思っていました。しかし、渡辺さんの話を聞いて、「自分は大切な存在なんだ！」という気持ちになりました。様々な背景を持つ方のお話は、印象深く、心に残りました。私は今看護学生です。看護師になった時に、私も患者さんや家族の方々に対して、「大切に想っています」ということを伝えられるような人になりたいです。ありがとうございました。

連絡先：神奈川県健康医療局保健医療部健康危機管理課感染対策グループ 〒231-8588 横浜市中区日本大通1
TEL:045-210-4793 FAX:045-633-3770
E-mail: kenzou-kansen@pref.kanagawa.jp



HIV/AIDSになって何が悪い!?!

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

登壇：ブルボンヌ(女装パフォーマー)、長谷川博史(JaNP+) 司会：岩室紳也

内容:ドラッグクイーンブルボンヌさん、“レジェンド”長谷川博史さんを迎え、岩室先生が軽快に回すぶっちゃけトーク。ゲストのお二人のセクシュアリティに関するエピソードや「あるある」話、長谷川さんの壮絶な「透析施設40軒受け入れ拒否」から目の当たりにした、今もなお変わらない医療機関によるHIV/AIDSへの偏見・差別…。U=U(Undetectable=Untransmittable:ウイルス(HIV)検出限界以下なら感染しない)などHIV/AIDSの最新情報なども交えたライブ感満載の120分。



来場者感想:

- 長谷川さんの「病院を40軒断られたお話」にはとても驚きました。HIVのことを知っているはずの医療者が差別や偏見を持っている。周りの価値観に合わせて自分の本当の気持ちに気付けない、気付かない…社会が人の違いを認め合い、大切にできればみんなが生きやすい世の中になるのかなと思いました。(神奈川県 20代 学生)
- ブルボンヌさんの「ほとんどのことは慣れよ」長谷川さんの「いろんな人がいたほうが絶対に楽しい」何気ない言葉がとても印象的でした。本当に素敵な方々で、性がどうこうは全く関係なく、今回のこういう時間(感覚)が広く社会に普通にあるといいなと思います。人と違うことが気にならなくなると、みんなが楽になる気がしました。(岐阜県 40代 教育関係)

連絡先:岩室紳也 紳也's HP: URL:<http://iwamuro.jp/>

恋愛しくじり先生

主催：岡田ゆりか

泌尿器科医として性教育活動を行っています。

内容:自らの恋愛しくじり体験をもとに、恋愛、こころ、性などについて語りました。「正しい知識」だけでは行動につながらない。自分が若いころに恋愛にのめり込み、身も心もギリギリの状態まですり減った経験から、恋愛・失恋への考察が必要不可欠だと感じていました。それをうまく伝えられないかと思い、今回の企画「恋愛しくじり先生」を行わせて頂きました。

知名度もなく、私自身も直前まで人が集まるか不安でしたが、いざ蓋を開けてみたら満員近くの聴講者に来て頂くことができました。これほど興味を持ってもらえた理由の一つは、やはりみんな他人の失敗から学びたいという思いが強いのだと思います。特に恋愛に関する失敗は「恥ずかしいもの」として、なかなか共有されにくく、個人の問題として片付けられがちです。今回私が自らの経験を公にし、聴講者への投げかけも加えたことにより双方向性の講義となり内容が深まったと感じます。

その後の感想でも「自分も同様の経験があり、安心した」「自分も生徒に上から正しいことを伝えるのではなく、自分の失敗も語れるようになりたい」といった内容のものを多く目にし、意義があったと感じております。

また講義内で提案した「失恋カフェ」という企画についても、「ぜひ実現させてほしい」との意見をもらい、このフォーラムをきっかけに実際に社会の中で新しい活動を生み出すことができるのではないかと非常に手ごたえを感じております。

今後も内容をブラッシュアップしていきたいと思っておりますので、次の機会もぜひよろしくお願いたします。



連絡先:岡田ゆりか

E-mail:y-okada13@tees.jp

Facebook:[https://](https://www.facebook.com/yurika.muto.5)

www.facebook.com/yurika.muto.5

みんなで話そう！AIDS・多文化“本音ラリー”

主催：特定非営利活動法人かながわ外国人すまいサポートセンター

内容：エイズについての知識や神奈川県外国籍住民の現状を共有した上で、2つのテーマ「エイズ」「多文化」について参加者が持っているイメージや本音を出し合い、グループで共有し話し合いました。グループ内での意見交換を通して、エイズや多文化に対する自分の考え方をみつめるとともに、誤解や漠然とした不安、情報不足などに気づくことができました。また、正しい知識を持つことの大切さや自分とは違う視点に出会うことができ、参加者自身が自分の考え方を広げることにつながったと思います。最後にフィリピンのLGBTを題材にしたフィリピン映画を鑑賞しました。

来場者感想：

- あらためて多文化共生の意味を考えさせられ、自分の知識も広めようと思いました。
- 自分が知らないことがとても多く、このような機会に参加したことで、色々な意見を知ることができました。
- 人はそれぞれの価値観を持っていて、目の前の人とコミュニケーションをとることが多文化に触れることになるのかなあと感じました。
- “違い”をどう扱うか、という部分にその社会の“心”が反映されると思う。日本はどうもその部分、“同じ”であらせられるカタチなのかなと。
- LGBTが“多文化”に含まれる時代を面白く感じつつ、“LGBT”という文化がまとめられ、特に男性トランスジェンダーがギャグ化されつつ可視化されているのは、一種のワナだと思っている。これについてはおいおい伝えたい。



連絡先：特定非営利活動法人 かながわ外国人すまいサポートセンター 〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7
横浜YMCA2階 TEL:045-228-1752 FAX:045-228-1768 E-mail:sumai.sc@sumasen.com

にじ色ライフプランニング入門講座

主催：特定非営利活動法人パープル・ハンズ

性的マイノリティの老後を考え、つながるNPOです。

内容：医療の進歩で長期生存が可能となったHIV陽性者。その一方、「長生きできるようになったがゆえの困難」も、これから顕在化してきます。「老後は2000万円不足する」も、社会の大きな関心を引きました。陽性者も例外ではありません。

このセミナーでは、性的マイノリティと高齢期の困難を紹介し、それを乗り越えるために必要な情報を整理しました。

1) お金や社会保障制度の堅実な知識、2) 結婚制度の外で誰かとの関係を保障する方法、3) コミュニティ情報、です。社会一般にも、ライフプラン情報は流通していますが、いわゆる「標準家族」バージョンばかりであり、1) おひとりさま、2) 法律上まだ認められていない同性ふたり、3) 人生の途中で性別を変えた人、4) 病や障害とともに生きる人、といった場合に当てはまりづらいのが現状です。

本セミナーでは、こうした人々バージョンに情報を読みかえ、最低でもまずこれだけは知っておきたいことや、広告に踊らされないお金の合理的な使い方、制度を活用するコツなどをお知らせしました。10名ほどの聴講でしたが、支援や周辺にいる人々の受講も多く、「だれにでも必要な、学ばべき情報だった」とのアンケート記述もありました。

とかく「こころのサポート」になりがちなエイズ支援現場で、「お金や老後のことも大事」と言えることが必要だと思います。



連絡先：特定非営利活動法人パープル・ハンズ
〒164-0003 東京都中野区東中野1-57-2柴沼ビル41号
TEL：03-6279-3094 URL：<http://purple-hands.net/>
Twitter：@PurpleHands_net

妊産婦への切れ目のない支援

主催：認定NPO法人 AIDSネットワーク横浜

講師：水主川 純（東京女子医科大学産婦人科准教授）

1993年設立。電話相談、出前講座、イベント開催など、広く一般市民に対してHIV、AIDSの啓発、相談活動を展開。文化フォーラムには1回目から参加。



内容：水主川(かこがわ)先生は、長く「飛び込み分娩」や「未受診妊婦」、「望まない妊娠」等の社会問題の解決や啓発に力を入れられ、現在、東京女子医大で周産期医療を担当されています。今回は、妊娠のあり様、妊婦健診、感染妊婦の現状、出産方法などに加え、「継続できない妊娠」から「虐待」（10代の母は1%なのに、虐待死では10%）の話もされ、妊娠から出産後まで、「切れ目の無い支援」の必要性をお話されました。

来場者感想

- 妊婦感染症の基本を改めて教えてもらった感じがした。とても分かりやすく、勉強になった。エコー写真がきれいでした。 (助産師)
- 妊娠中の感染症のお話、そしてHIVスクリーニング検査で陽性が出た妊産婦さんに伝えるべき2項目がとてもためになりました。 (医療通訳)
- 産後一ヶ月健診でエジンバラ産後うつ病質問票が高得点の子がいます。行政にはつながりますが、その後の経過がなかなかみえず、どのようにフォローしているのかなど疑問に思っています。ニュースなどで悲しい事件を見るたびに自分が関わった方では？と気になっています。切れ目の無い支援、大切です！！ (保健師)
- すばらしい取り組みをお聞かせいただき、ありがとうございます。 (医療関係)
- 助産師として、初めて教わること、学ぶことが出来てよかったです。ありがとうございます。 (助産師)

連絡先：認定NPO法人 AIDSネットワーク横浜

〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39尾上町ビル9F 横浜AIDS市民活動センター内

TEL:045-201-8808 FAX:045-20-8809 E-mail: any@netpro.ne.jp URL: http://www.netpro.ne.jp/~any/

心に響く話をしよう

主催：思春期保健指導者研究会

思春期の子どもたちに何をどう伝えるかということを考え、心に響くメッセージのために研究、研鑽しているグループです。

内容：テーマ「心に響く話をしよう」

・「心に響く話」ってそもそもどんな話？

・「心に響く話」をするためのポイント4つ

1.スローガンは言わない 2.リアルな経験を伝える 3.専門用語は使わない 4.無駄な言葉を省く

ポイントはたったこれだけです。でも、このポイントを押さえた話ができるためには訓練が必要です。客観的に自分の話を聞いて、どう感じたかということを繰り返しながら、聞き手の興味関心を持続できる内容になれば自然と相手の心に響く話になっていくはずですよ。

来場者感想：

- 今日聞いたことを頭に置きながら話をしたいと思います。
- 自分の体験・経験を交えて話すこと、専門用語は使わないというのは、いろんな場面で必要だと思いますので、これからは意識していきたいです。
- 思春期保健指導者研修会に参加したいと思った。

連絡先：北山翔子 E-mail: jasmin703aladdin@gmail.com

研修会の申し込みは URL: http://iwamuro.jp から (2021年2月頃開催予定の申し込みは2020年8月頃受付開始)

宗教とエイズ Part 14

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

登壇：平良愛香（日本基督教団牧師）

古川潤哉（浄土真宗本願寺派浄誓寺僧侶）

岩室紳也（ヘルスプロモーション推進センター）



内容：セクシュアリティ、自死、死後の世界感、宗教における救いなど、現代社会の様々な話題に展開(脱線?)していく。宗教が保守的な解釈や世間の道徳的な価値観寄りの立場によって人を苦しめる側になってしまうことなど自己批判、反省の内容を含むことから、宗教嫌いの人こそ、宗教の何が嫌いなのか分かってスッキリできる。セクシュアリティやセックス、性の受け止め方に関する仏教とキリスト教、またそれぞれの中の各派や立場による解釈、登壇者自身の思い、エイズや病気に関連して自業自得という表現に苦しむ人がいることから、聖書や経典の表現とその解釈、翻訳についての話に。平良さんから聖書の「愛」は最初の日本語訳では「お大切」とされており、大好き！愛してる！の愛とは少し違うこと。平良さん自身が「あなたのこと、嫌いだけど愛してる！」と言われてキリスト教的だと感じたエピソードを披露。古川は仏教で言う「愛」は人間レベルでは「愛欲」であり悩み苦しみの元、仏さまの愛は「慈愛」としてあらゆるいのちへの慈しみとの話となり、双方の類似点や相違点が楽しめる展開が続いた。宗教は役に立つのか？について、「どうでしょうねえ？」という本音トークの中から、宗教は死後の安堵のためにあるのではなく、今生きる私にはたらくものであることを再確認できた時間となった。日本社会が、いつの間にか「正義を振りかざしてのいじめ」体質になってしまっていることについても、宗教は良し悪しを断じるのではなく、自分自身がそもそも正しさだけでは成立しないことへの自覚を促すものであるとの立場を示した。(古川)

来場者感想：

- 諸行無常を心の糧にもうすこしねばってみようと思う。(埼玉県 40代 教育関係)

連絡先：古川潤哉 E-mail: junya@joseiji.org URL: <http://furujun.info>

インターネットのアダルトサイト その現実に迫る

主催：現役AV男優 森林原人、インターネット専門家 宮崎豊久

内容：雑誌、ビデオテープ、DVD、ネット配信。伝達手段は時代とともに変わってきましたが、アダルトコンテンツを社会でどのように扱っていけば良いかという課題です。このセッションでは、表面的にしか語ることが出来なかったアダルト業界の裏側と、摘発対象になるインターネット上の違法アダルトコンテンツの実態を、現役AV男優と、警察の外郭団体にいたネット専門家が語る、かなりディープな内容となりました。子どもたちのスマホには、安心アクセスというフィルタリングサービスが装着されているのが前提ですが、多くの子どもたちはそもそもそのサービスを使っていなかったり、制限を回避したりして、アダルトサイトを自由に見てしまっているのが現状です。もちろん、アダルトサイトが子どもたちにとって最初の性教育になる可能性もあり、扱いには慎重になる必要もあります。また、いわゆる一般的な映像作品に加えて、違法コンテンツも数多くあり、盗撮や公然わいせつに該当するような個人の性行為のライブ配信などは、かなりショッキングで心の傷になることもあります。二人が一致した意見は、注意喚起するだけではなく、コンテンツを出来るだけ多くの人と見る環境を設けて、それをお互いに意見交換できることが必要だということでした。しかし、ビデオテープの時代と違い、スマホはパーソナルツールで、ほとんどの人が一人で見る環境にあります。引き続きこの課題については社会で話し合っていく必要があるという意見でこのセッションをまとめました。

来場者感想：

- インターネットで見られている動画の割合にびっくりしました。
- 普段は絶対聞けないような話が聞けて良かったです。
- 大人がアダルトサイトの現状を知ることが大切だと思いました。



連絡先：宮崎豊久

E-mail: miyazaki.toyohisa@gmail.com

「自分を大切にすることってどんなこと？」 あなたの知らないからだの魅力

主催：Lino a Malie セラピスト 川島章代

内容: 私たちのからだには素敵な魅力がいっぱいあります。40年も自分を大切にできなかった私が、自分を大好きに大切にできるようになったきっかけのからだの魅力や命やからだがあることの素晴らしさ・ケアの方法についてお伝えしました。人肌恋しくて数々の男性と肌を重ねて後悔したこと、たくさんの失敗や悩みから心とからだの関係について、でも肌の触れ合いは人生を豊かにする大切なことで求めることは自然なこと。大切なコミュニケーションだからこそ、自分を守る知識を身につけていこう！とからだの魅力をたっぷりとお話させていただきました。

来場者感想：

- 自分の体を好きに大切にしようと改めて思いました。正直な告白に心打たれました。(東京都 50代)
- 今までにないアプローチ講座でとても心地よい時間を過ごすことができました。思春期の子どもたちにも伝えたいと思いました。(東京都 30代 教育関係)
- パートナーの身体について知ることも愛情だと思った。SEXにも色々な見方があると思った。(神奈川県 10代 学生)
- 女性のことについて知らないことばかりでした。ちつの切り口からの話が新しい気づきになった。(東京都 40代)



連絡先：Lino a Malie

〒115-0043 東京都北区神谷

E-mail: akiyo.k.173@gmail.com

URL: <http://www.lino-a-malie.com>

エイズ対策 × アフリカ × 国際協力

主催：齊藤 肇

青年海外協力隊(2005年2次隊/モザンビーク/エイズ対策)

内容: アジェンダ: ワークショップ(自己紹介など)/自己紹介/モザンビークの概要およびエイズの現状/現地での活動紹介/現地での暮らし、文化・交流/2年間を通じて楽しかったこと、大変だったこと/帰国後の活動やキャリアについて

報告: 4回目の登壇となった2019年は、自身の隊員活動報告に加えて、簡単なワークショップを通じて、来場者との双方向のコミュニケーションを行った。「自己紹介」の一つとして、自分に#(ハッシュタグ)を付けるワークなどを通じて、自分を表現することの重要性に気付いてもらうことを狙いとした。その結果、来場者アンケートに「単にエイズ予防のための国際協力の話だけでなく、生き方、自分を表現する大切さなど、大変考えさせられた」というコメントを頂き、青年海外協力隊員としての社会課題への関わり方を少しは伝えることが出来たのではないかと感じている。また、自分にとって「伝える」ことの面白さ、難しさを、AIDS文化フォーラムを通じて学ばせてもらっており、今後の課題も確認できた。

連絡先：齊藤 肇

E-mail: hajimesaito1974@hotmail.com



教育関係者に知ってほしい 昭和 vs 平成

主催：精華学園高等学校町田校 校長/心理カウンセラー 椎名雄一

昭和生まれと平成生まれの間にある分かり合えない 価値観の違い。その違いを解消する方法をお伝えします。

内容：時代の移り変わりがどんどん加速していく中で「育った年代」によるギャップが広がっています。高校3年生が同じバイトの高校1年生を指して、「最近の若い子は良く分からない」と言うくらい、ギャップが生まれるサイクルが早くなっています。それに伴って、学校や企業を中心にそのギャップが理解できずに悩むひとも増えています。昭和から平成を振り返りながら「当時の常識」が「現代の非常識」に変化していく様子を共有し、どんな風に平成(令和)の世代と向き合っていたらよいかを具体的に取り上げました。みなさん教育現場や職場、家庭に置き換えて活発に議論をしていました。

来場者感想：

- 平成生まれの娘からこのテーマには絶対に参加してほしいと頼まれ、参加しました。今日の話参考に、子どもへの接し方を変えてみたいと思いました。夫にも話します。目からウロコでした。(50代 保健医療福祉関係、北海道)
- 平成生まれの人も協力・共生していけると思えました。(60代・神奈川県)

連絡先：精華学園高等学校 町田校
〒194-0013 町田市原町田4-1-10(4F)
TEL 042-739-7140
URL：<http://seika-machida.jp>
E-mail：info@seika-machida.jp



看護師とコンドームソムリエの性のトーク！

主催：星野貴泰とコンドームソムリエAi

手術室看護師として働きながら性教育講演を行う星野貴泰、「コンドーム選びを前戯に！」コンドームソムリエAi

内容：「コンドームを着けない男性」と付き合ったことをきっかけに、コンドームソムリエとなったAiさんの経験談から始まった前半は『あなたの知らないコンドームの世界』として、「素材」「厚さ」「サイズ(太さ)」など、様々な種類のコンドームの紹介を通し、「コンドームの選び方」について解説しました。他にも妊娠や性感染症のプロテクターとしての目的だけではなく、「いつもと違う」を楽しめるエフェクター系コンドームなども紹介し、来場者全員に「触って、嗅いで、引っ張って」コンドーム試触会を楽しんでいただきました。後半部分では性教育講演でコンドームをどうやって伝えるか、コンドームにまつわるエピソードトークなどを行いました。

来場者感想：

- コンドームのことなんて学校じゃ教わらないからためになりました！！(20代 学生)
- ゲイの生徒からSTDは不安だけど、コンドームを着けてと言えないと相談されることもありました。「コンドーム=プロテクターであり、エフェクター』ということを彼に伝えようと思えます。(30代 教育関係)
- 着けてもらうためにどうする？という話や自分を大事にすることに抵抗がある、という話も興味深かったです。(30代 性教育講師)

連絡先：星野貴泰 E-mail：tkstarys.lovelives@gmail.com
Twitter：[@tkstarys](https://twitter.com/tkstarys) HP：tkstarys.com ※講演依頼があればどこへでも出かけますのでご相談ください。
コンドームソムリエAi E-mail：info@aicon-j.com
Twitter：[@Ai_con_j](https://twitter.com/Ai_con_j) HP：aicon-j.com



本音で性について<話す>と<リアル>に！！

主催：岩室紳也（泌尿器科医）古川潤哉（僧侶）

登壇：森林原人、吉村卓、田淵正浩（AV男優）、しじみ（女優/元AV女優 持田茜）

内容：性の話をする上でAV（アダルトビデオ）の存在は避けて通れません。しかし、一般的にはAV業界の人と話す場がなかったり、あっても本音でAV業界の状況を聞く機会はありません。そこで長年AIDS文化フォーラムから様々な発信を行っている医師と僧侶が現役男優、元女優に本音で突っ込みを入れてみました。それぞれがこの業界に入ったきっかけ。本番なしの時代からありの時代に移り辞めていった人がいたこと。この業界にいるからこそどのような性感染症対策を徹底しているか。相手への配慮で心がけていること。業界人だからこそAV強要問題を問題視し、そうならないように真剣に考えていること。つくりものとして存在している理由にリアルに迫ることができた時間となりました。

来場者感想：

- 男優さんの話が深すぎて、今まで持っていたイメージを申し訳なく思った。（埼玉県 30代 保健医療福祉関係）
- AVの作り手の本音が聞けたのはとても面白かった。AVの感想をシェアすることを広めたい。思い込みの部分が大きかったことに気づいた。安心して参加できる会場の雰囲気よかったです。（宮城県 40代 NPO/NGO）
- R18で充実してて、笑いがあってよかった。今まで軽視？見ないようにしていたことを真面目に語ることも大事だなと。（兵庫県 40代）
- 素敵な言葉がたくさん出てきたなーと感じました。コミュニケーションがとれているセックスって幸せですね。（福島県 20代 教育関係）
- 本当にリアルな話が聞けて、改めてAVの意味を感じました。楽しみだけでなく、性・SEXの本質を考えさせられました。（神奈川県 60代 保健医療福祉関係）
- 森林さんがすごく良い人だと思いました。（長野県 30代 保健医療福祉関係）



連絡先：岩室紳也 紳也's HP: URL:<http://iwamuro.jp/>

成長するための傾聴講座

主催：精華学園高等学校町田校 校長/心理カウンセラー 椎名雄一

「我慢する」、「聞いてあげる」という上から目線の関わりではなく、お互いが成長できる傾聴の方法を紹介。

内容：傾聴をライブで体感できる傾聴講座を行いました。講義の際の講師と受講した方との関係、講座参加者全体、ボランティアのスタッフなどの関係性も全て「今現在起きている傾聴」です。ボランティアスタッフが講師を紹介してくれる。それに講師が応える。受講する方が感謝の拍手をする。講師が話をする。受講する方がうなづいたり、視線を合わせてリアクションする。それらの丁寧なキャッチボールが傾聴の基礎にあります。講座終了の頃には全員、格段に話が聞けるようになっていました。知識よりも経験が大事だと感じた講座でした。

来場者感想：

- 今までの傾聴を覆す程の内容でした。すごく納得がいきました。（神奈川県 50代 保健医療福祉関係）
- 帰ってから自宅で子どもと向き合ってみるつもりです。傾聴できるか、4割ぐらいは、口出ししてしまいそうですが、少しずつ変えてみたいと思います。（北海道 50代 保健医療福祉関係）

連絡先：精華学園高等学校 町田校
〒194-0013 町田市原町田4-1-10
(4F) TEL 042-739-7140
URL:<http://seika-machida.jp>
E-mail:info@seika-machida.jp



女性と性感染症～性感染症と妊娠出産との関係

主催：平成31年度厚労科研分担研究「HIVをはじめとする性感染症と妊娠に関する情報の普及啓発法の開発」班

内容：当研究班では「女性と性感染症～性感染症と妊娠出産との関係」と題し、HIV/AIDSと現在感染者が急増している梅毒について、病気の基礎と妊娠・出産への影響について説明した。

参加者は地域や学校の保健・医療関係者や学生が30名程参加されており、他県からの参加者も多かった。HIV感染告知を受けた女性の反応やサポートについて、また、妊娠・出産など、女性特有のライフスタイルへの影響についての質問も多かった。

日本のHIV/AIDSの感染者は女性が少数派であり、女性特有の悩みや不安を相談できる機会・場所も少なく、情報へのアクセスも難しいことが考えられる。孤立してしまいがちとなりやすいため、適切なサポートが受けられるようになるためにも、正しい知識や情報を普及するためにとっても有効な時間となった。

連絡先：平成31年度厚労科研
分担研究「HIVをはじめとする
性感染症と妊娠に関する情報
の普及啓発法の開発」班

E-mail:

yoshihito_momohara@tmhp.jp

URL: <http://hivboshi.org>

Twitter: <https://twitter.com/hivboshi>



ボランティアの一步 in タイ

主催：横浜YMCA

世界120の国と地域に広がるYMCAは、平和で差別や貧困のない世界を目指して活動している。横浜YMCAは1994年よりタイ・バンコクYMCAと協働し児童保護プロジェクトを進めている。

内容：はじめに、横浜YMCAについて紹介後、タイのHIV/AIDSの現状や活動について、そして、横浜YMCAとバンコクYMCAの協働プロジェクトである「プロテクト・ア・チャイルド」概要について説明しました。「プロテクト・ア・チャイルド」の活動拠点はタイ北部パヤオ県にある、バンコクYMCAが運営する児童保護シェルター「YMCAパヤオセンター」です。タイ北部は貧困で現金収入のために、子どもが人身取引に巻き込まれるケースが依然として後を絶ちません。センターは被害にあうリスクのある子どもを保護し、教育の機会を守ったり、子どもたちのライフスキル向上のための支援を行っています。2018年8月にセンターを訪れ、ボランティア活動や交流活動をした学生や職員により、現地で聞いた人身取引の現状や被害にあった方のリアルな声を紹介しました。最後に、センターの子どもたちや村の女性が製作したタイの民芸品「パヤオクラフト」について紹介し支援を呼びかけました。

連絡先：横浜YMCA 総主事室 国際・地域事業 〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7

TEL:045-662-3721 FAX:045-651-0169

E-mail: kokusai@yokohamaymca.org URL: <http://www.yokohamaymca.org/>



私たちは必ず回復する

主催：ナルコティクスアノニマス

薬物依存の当事者団体です。

内容：ナルコティクスアノニマス(以下、NAと称します)のメンバー4人が体験談を話し、なぜ薬物を使うようになったのか？薬物を使用してどうなったのか？そして、どのようにして回復してきたかを、それぞれの経験と希望と力のメッセージとして伝えた。

また、NAについて私たちは非営利団体であり、メンバーになるための条件はなく、入会金や会費もかからない事と定期的なミーティング参加と仲間同士の支援がこのプログラムの基盤になっている事を説明しました。

NAは断薬を基本とした回復プログラムでありアルコールを含む全ての薬物を完全に断つというものです。

そしてNAは世界中の薬物依存症に回復チャンスを提供しています。

特定の薬物にとらわれることなく私たちは依存症という病気に焦点を合わせて活動をしています。初めてミーティングに参加したメンバーに唯一求めることは、薬物の使用をやめたいという願望だけです。私たちはその薬物依存症者に手を差し伸べることを目的に活動しています。

前日の講義があまりに盛り上がり、拍手喝采・大騒ぎをしていたので、興味を持って参加してくださった方が数名いました。深刻なテーマを笑いながらユーモアたっぷりに解消する方法を実演する中で会場全体がにぎやかな雰囲気になりました。60人部屋いっぱいの人が「ふざけすぎて今は悩めません」となっていたのが印象的でした。家や職場、学校などでぜひ実践して欲しいと思います。

来場者感想：

- 当事者の方の声が何より心に届いた。(千葉県 50代)
- テレビで見たことがあったが、直接お聞きすることが出来て苦悩が伝わってきた。(滋賀県 40代)

連絡先：ナルコティクスアノニマスジャパン 〒115-0045 東京都北区赤羽1-51-3-301NAジャパンセントラルオフィス
TEL&FAX:03-3902-8859(FAXは24時間受付けています) 営業時間 毎週火曜 19時～21時 毎週土曜 13時～17時
E-mail:najapan.pi@gmail.com URL:http://najapan.org

特別企画 夜回り先生・水谷修

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

内容：いつもに増して、迫力のあった夜回り先生の授業。27年間、夜の街を見回り続けて子どもたちと触れ合っていく中で「夜眠れない子どもたち＝夜回りしていても会えない子どもたち」の存在に向き合い、「今までのことはみんなみんな、いいんだよ」を伝える活動を続けていく中で出会った、様々な子どもたちとの奮闘が、テンポよく伝わる。

来場者感想：

- 高校で教員をしていて、どこまで真剣に生徒の苦しみに関わろうとしているだろうかと思い、恥ずかしいです。働き方改革・効率化が学校でも叫ばれていますが、高校生たちの声に耳を傾けられる存在でありたいと思いました。(岐阜県 40代 教育関係)
- 壮絶な話でした。どう書いていいのかまだまとまっていません。自分の今後の生き方にどう生かせるかわからないけど、できることから今日の言葉を思い出しながら、生きていきたいです。(千葉県 40代 保健医療福祉関係)
- 自分にできることを考え直すきっかけになりました。夜回り先生は「自分は人を殺している」という表現が使われていましたが、それ以上に誰かのヒーローであると思います。少なからず、僕にはそうです。ありがとうございました。(神奈川県 10代 学生)

連絡先：AIDS文化フォーラム in 横浜事務局 〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7
横浜YMCA内 TEL:045-662-3721 FAX:045-651-0169
URL:https://abf-yokohama.org/ E-mail:abf@yokohamaymca.org



性の価値観（AVから家庭教育まで）

主催：AV男優有志の会

AV男優業で培った性感染症予防の知識や、性行為における実践的な心がけを伝えています。

内容:AVで描かれている性的行為は、行為をしている当事者が楽しむことよりも、その行為を客観的に見ているユーザーを楽しませることが第一目的である。なので、AVの真似をして実際にセックスをすると不自然だったり、互いの心身を傷つける事故が起こりやすい。この点をまず説明してから、AVをどのような意識で見ることが重要なのかを伝えた。と同時に、撮影現場では実際に性的行為をしている出演者たちがどのようなことに気をつけ、性感染症予防をしたり、お互いの心身が傷つかないように配慮しているのかを説明した。具体的には、1か月に1回以上の性感染症(B型肝炎、梅毒、HIV、淋菌、クラミジア、喉淋菌、喉クラミジア)検査が義務付けられていたり、行う性的行為や出演に関する意思の確認が繰り返しある。以上の話を踏まえ、来場者の方に検査を受けることの大切さと、検査を身近に感じてもらうよう促した。



連絡先:AV男優有志の会

E-mail:moribayashigenjin@gmail.com

「心地よい」からだのタッチを考えてみよう

主催：東京都開業助産師・有馬祐子

助産師として、地域で家庭訪問や集団指導をしています。それと共に心の通いあいを大切に[性・いのち]に関する指導をする活動をしています。日本思春期学会幹事・性教育認定講師です。

内容:からだにふれることで、心やからだにどのような反応があるものかお話をし、参加者一人一人で行うセルフマッサージの時間をもちました。脳と皮膚の感覚がとてもつながっていることから、手にふれる心地よさは心をリラックスさせるとお話をしました。二人組になり、「今から始めますよ」「いかがですか?」「そろそろ終わりにしますよ」と声をかけ合いながら、背中でのマッサージを体験しました。

来場者感想:

- 赤ちゃんへのふれ方、パートナーへのふれ方を「心地よい」「優しい」ものにしたと思いました。また、自分に優しくふれることで優しい気持ちになりました。
- 自分のからだの声をきき、自分のからだをふれることの大切さを体感することができ、学ぶことが多い時間を過ごすことができました。
- 思いがけず新人介護職員指導についてヒントをいただきました。有馬先生の穏やかな語り口にも癒される二時間でした。
- 今日の家庭生活から、また明日のお仕事から早速取り入れていきたいです。
- 私が徒手マッサージに強く興味を持ったのは1995年当時、AIDSの治療薬効果の薄い時代にターミナルケアとしてマッサージをしていたバギーノ林子さんに出会ったことからでした。AIDS文化フォーラムで久しくこのようなテーマを取り上げる方がいなかったのも、とても刺激になりました。



連絡先:助産師・有馬祐子 E-mail:shishunki.arima@gmail.com

URL:<http://midwifemap.com/92yamw/mysite/staff/>

お坊さんが行う性教育授業 ver.9

主催：古川潤哉 浄土真宗本願寺派僧侶（佐賀県伊万里市浄誓寺）

内容：佐賀県DV総合対策センターが実施している中学校向けDV予防教育の1コマ、「エイズを通して命を考える」を担当する形で、県内の公立中学校の3年生向けに「生と性と死を考える」性教育授業を行っている。このプログラム内では年間25校ほど。その他に直接依頼で県内外の小中高校、看護学校、保護者や教員向けの性教育講演が年10校ほど。私自身は、ホスピスへの関わりからHIV/AIDS、性やセクシュアリティに関わりを持ち、思春期世代への性教育に関わるようになった。健康教育という側面だけではなく、生きることとして、自分のこととして性やセクシュアリティに関心をもってもらい、いのちの大切さよりもむしろ「自分自身の大切さ」から「周りの他者の大切さ」に目を向けてもらえるように展開している。「生と性と死」はバラバラではないということが伝われば有り難い。

来場者感想：

- 死について考えた。
- 面白かった。
- 新鮮だった。
- 何度聴いても目から鱗。
- 先入観が覆った。
- 自分が子どもの頃に聞きたかった。
- 多くの中学生に聴いて欲しい。
- キレイゴトではないからこそ子どもたちにも伝わると感じた。



連絡先：古川潤哉 E-mail: junya@joseiji.org URL: <http://furujun.info>

薬害エイズを生み出したもの 薬害エイズと731部隊の関係

主催：薬害エイズを考える山の手の会

薬害エイズ訴訟が1996年3月に和解するも被害者の実情は悲惨で薬害エイズを風化させないために地域で活動している団体。

内容：731部隊に詳しい神奈川大学名誉教授の常石敬一先生にお話し頂きました。常石敬一先生のお話しということで60名の部屋がほとんど満席状態になりました。第2次大戦中関東軍731部隊は中国のハルピンの巨大研究施設で人体実験を行い戦後731部隊の関係者である内藤良一が薬害エイズの被告企業ミドリ十字を創設しました。常石先生は残された資料と731部隊の関係者の面談から客観的な視線からお話しされました。関東軍防疫給水部の組織や731部隊の呼び名が1年間だけで呼び名を変えていたことなど、またミドリ十字は内藤良一の死によって変わっていったこと、結核・BCGや日本の医療政策など大変興味深いお話しをされました。参加者から興味深い内容だったとの感想もありましたが2時間の枠では時間も気にしながら足りなかったことや専門用語もあり分かりにくいとの指摘もあり運営する会としての用語解説など事前準備の反省もありました。

連絡先：薬害エイズを考える山の手の会 〒123-0865 東京都足立区新田3-17-2-105 TEL&FAX:03-6676-2181
E-mail: egawa.moritoshi@topaz.plala.or.jp



すきまミニ講座 ~

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会
講師：山田雅子

内容：今年も昼の30分でミニ講座をいたしました。今年は①30分でわかるHIV/AIDS ②予防 ③学生とリアル、という感じで少しずつ視点を変えてお話しました。どの回も意識してお伝えしたのはHIVの感染と、感染後の経過（治療した時としない時の違い）と、慢性疾患の1つとして（感染の有無に関わらず）HIVとどうつきあうかということでした。

来場者感想：

- 30分だがとても濃い内容でした。HIV/AIDSについての基礎知識を学べる機会はありませんでしたのでとてもよい機会になりました。HIVに対する意識が変わりました。（神奈川県 10代 学生）
- ホワイトボードとお話で、シンプルな伝え方が新鮮でした。AIDS文化フォーラムをやらなくてもいい社会になったら一番いいという言葉が印象的でした。（40代 保健医療福祉）
- 情報のアップデートの必要性がよくわかりました。（神奈川県 50代 保健医療福祉）
- 看護学生ですが学校ではこういう話がきけないため参加して勉強になりました。（神奈川県 30代 学生）
- AIDS文化フォーラムを続けなければいけない社会って…？という問い。感染症のことを学んでいると思っていましたが、実は偏見や差別、社会問題について自分が考えるきっかけとなりました。（神奈川県 20代 学生）

連絡先：山田雅子（早稲田速記医療福祉専門学校看護科）
〒171-8543 東京都豊島区高田3-11-17
TEL:03-3200-8080 E-mail:yamada@kawaguchi-g.ac.jp



新聞記事

カトリック新聞
2019年4月7日



**カトリック中央協議会
HIV/AIDSデスク職員に
「かながわレッドリボン賞」**

で受賞式が行われた。主催は、HIV感染の拡大防止とAIDS患者への偏見、差別をなくす啓発活動に取り組んでいる神奈川県エイズ対策推進協議会。伊東さんは、AIDS文化フォーラムin横浜に運営委員として関わり、自身のネットワークを活用して長年、宗教界に呼び掛ける活動が続いている。また2年ごとに開催されるアジア太平洋カトリックHIV/AIDS連合会の会議にメンバーとして参加。各国の現状理解や協力体制を整

受賞した伊東さんは、「レッドリボンを着けていると、電車の中で前に座っている人が興味深そうにそれを見てくれるのに出会います。私は今後もレッドリボンを身に付けて、少しでもHIVとエイズについての偏見と差別を解消するために、引き続き力を尽くしていきます」と語った。

同協議会のレッドリボン賞表彰は今年度で23回目。昨年は団体として横浜雙葉中学校・高等学校の茶道部が受賞している。伊東さんは、同校茶道部がAIDS文化フォーラムin横浜で早茶席を設ける活動などを調整、貢献を続けている。

伊東和子さん

展示プログラム

アジアの女性と子どもネットワーク

アジアの中でも特に女性や子どもといった社会的弱者の人権を守るための活動を行う。主にAIDS孤児のために薬代や通学の費用等の協力支援を行っている。

内容: 私たち「アジアの女性と子どもネットワーク」はタイの若者のHIVに関する現状に関してのパネル展示を行い、来場者に伝えると共に、支援のための手工芸品の販売を行った。

タイは1980年代後半にHIVが爆発的に流行し、それを阻止するために性教育を徹底し、コンドームを配布するなどの対策を徹底し、大きな効果を上げた。しかし、それから20年以上を経過し、コンドームの無料配布は途絶え、性教育もおろそかになった結果、近年では若者のHIV感染率が上がってきているという状況になっている。

また、AIDS孤児院で育った子どもたちが青年期を迎え、自立して暮らすようになったが、恋人や周りの人にHIV陽性をカミングアウトできないために、薬の服用を止めてしまうという現状も起きている。体調が悪くて孤児院に助けを求めてきたときには、かなり病気が進行してしまっている例などもあるという。このようなタイの現状は、どこの国にも起こりうることである。

これらのタイの現状から、しっかりと性教育の徹底と、HIV/AIDSへの理解を広めることの重要性を来場の方々に伝えることができたことは有意義であった。

連絡先: アジアの女性と子どもネットワーク 〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9F 横浜AIDS市民活動センター内
TEL&FAX:045-650-5430 E-mail:awc@h6.dion.ne.jp
URL: <http://www.awcnetwork.org/>



カトリック中央協議会HIV/AIDSデスク

1995年からHIV/AIDSの啓発活動をしています。

内容: オリジナル・ロゴ(レッドリボンと十字架を組み合わせたデザイン)の啓発グッズを紹介しました。

トートバッグ、キーホルダー、ピンバッジ、ビーズバッジ等です。中でも帆布素材のトートバッグは皆様からいただいた意見をもとに、改良を加え、内ポケットが付き、肩から下げられる、より使いやすい仕様になり、来場者の方々の目をひいたようです。日常生活の中でさりげなく使っていただければ、啓発活動の一環になります。また、今回、リニューアルしたミニカードも展示し、ご希望の方に配布しました。毎回、登場する看板人形、性別のあるカトちゃん&リクちゃん人形は今回も来場者の方にかわいがられつつ、性別当てクイズの主役を担ってくれました。小冊子『改訂版HIV/AIDSについて話したことがありますか』も配布。手にとりやすいB6サイズの、やわらかなピンク色の表紙に目をとめ、お持ちいただく方々もいらっしやいました。炎天下の中、大勢の方々に来場していただき、他の展示団体の方とも、情報交換ができた、共通の思いを分かち合ったり、有意義な時間を持つことができました。



また、今回、リニューアルしたミニカードも展示し、ご希望の方に配布しました。毎回、登場する看板人形、性別のあるカトちゃん&リクちゃん人形は今回も来場者の方にかわいがられつつ、性別当てクイズの主役を担ってくれました。小冊子『改訂版HIV/AIDSについて話したことがありますか』も配布。手にとりやすいB6サイズの、やわらかなピンク色の表紙に目をとめ、お持ちいただく方々もいらっしやいました。炎天下の中、大勢の方々に来場していただき、他の展示団体の方とも、情報交換ができた、共通の思いを分かち合ったり、有意義な時間を持つことができました。

また、今回、リニューアルしたミニカードも展示し、ご希望の方に配布しました。毎回、登場する看板人形、性別のあるカトちゃん&リクちゃん人形は今回も来場者の方にかわいがられつつ、性別当てクイズの主役を担ってくれました。小冊子『改訂版HIV/AIDSについて話したことがありますか』も配布。手にとりやすいB6サイズの、やわらかなピンク色の表紙に目をとめ、お持ちいただく方々もいらっしやいました。炎天下の中、大勢の方々に来場していただき、他の展示団体の方とも、情報交換ができた、共通の思いを分かち合ったり、有意義な時間を持つことができました。

連絡先: カトリック中央協議会 社会福音化推進部 HIV/AIDS デスク
〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館
TEL:03-5632-4413 FAX:03-5632-7920
E-mail: hivaid@cbcj.catholic.jp
URL: <http://www.cath-aids-desk.jp>
Facebook: <https://www.facebook.com/hivaiddesk.cbcj/>



神奈川県健康医療局保健医療部健康危機管理課

内容:HIV及びエイズに関する様々な統計データや匿名検査の案内などの情報が掲載されているAAA(Act Against AIDS)作成の知識啓発パネルを展示するとともに、ポケットティッシュやウェットティッシュといった啓発グッズの他、NPO作成のエイズ、性感染症、セクシュアリティに関する各種啓発冊子を配布し、情報提供を行いました。また、「やってみよう あなたのHIV/AIDS理解度チェック」と題して、HIV/AIDSの感染経路や検査、治療などに関する〇×形式のクイズを出題し、多くの方々に挑戦していただきました。正解数に応じて「キング賞」「クイーン賞」「ジャック賞」を設け、挑戦者の方々にはレッドリボンをパネルに貼り付けていただきましたが、最終的にはたくさんのレッドリボンが並び、とても華やかなパネルが完成しました。また、ほとんどの方がキング賞を取られるなど、全体的に正答率が高く、AIDS文化フォーラム in 横浜の来場者のエイズに対する関心や理解度の高さを実感しました。



連絡先:神奈川県健康医療局保健医療部健康危機管理課感染症対策グループ

〒231-8588 横浜市中区日本大通1

TEL:045-210-4793 FAX:045-633-3770

E-mail:kenzou-kansen@pref.kanagawa.jp

神奈川県ユニセフ協会

公益財団法人日本ユニセフ協会の地域組織として、2005年9月に設立した(財)日本ユニセフ協会神奈川県支部を前身とする任意団体です。公益財団法人日本ユニセフ協会との協力協定に基づく「協定地域組織」として、世界の子どもたちの生存・発達・保護・参加のための広報、募金、学習支援などのユニセフ支援活動を、神奈川県内において促進することを目的としています。

内容:ユニセフの主な活動分野の一つに「HIV/エイズ」があります。SDGsの目標3「すべての人に健康と福祉を」のターゲット3.3「HIV/エイズなどの感染症や肝炎、水によって感染する病気などの流行を終わらせる」を柱に、パネルや映像を通してユニセフのエイズに関する支援活動の紹介をしました。

また、高校生のインターンが考えたエイズについてのクイズに参加して下さった来場者に関心をもっていただくことができました。

ブースでは絵本「こどもの権利を買わないで -プンとミーチャのものがたり」を販売し、売り上げと設置した募金箱の金額7,464円を「ユニセフ子どもとエイズ募金」にさせていただきました。



連絡先:神奈川県ユニセフ協会

〒231-0063 横浜市中区花咲町2-57 ミシナビル201

TEL:045-334-8950 FAX:045-334-8951

E-mail:info@unicef-kanagawa.jp

URL:http://www.unicef-kanagawa.jp

公益財団法人横浜YMCA

世界120の国と地域に広がるYMCAは共通のミッションに基づき、「平和」で「差別」や「貧困」のない世界を目指しています。

内容:横浜YMCAは1994年より、タイ・バンコクYMCAと協働し、「プロテクト・ア・チャイルド」プロジェクトを行っている。タイ北部にある人身売買予防シェルター「パヤオセンター」では、子どもや女性の自立のために教育支援や、職業訓練、ライフスキルトレーニングを行っている。また、人権、人身売買、HIV/AIDSの予防啓発活動も行っている。今回は、パヤオセンターで製作されているフェアトレード商品「パヤオクラフト」の販売と活動紹介をした。

横浜YMCAのボランティアと職員がブースに立ち、クラフトの販売を通して、「パヤオクラフト」が「パヤオセンター」の子どもたちにより一つ一つ刺繍され、作られている商品であること、そのことが子どもたちの商業訓練の一環になっていることなどを紹介した。

来場者の方に、「パヤオクラフト」販売を通して、人身売買やHIV/AIDSの問題について知っていただくことが出来た。また、ボランティアや職員にとっても「パヤオセンター」やHIV/AIDSへの理解を深める良い機会となった。



連絡先: 横浜YMCA 総主事室 国際・地域事業
〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7
TEL:045-662-3721 FAX:045-651-0169
E-mail:kokusai@yokohamaymca.org
URL: <http://www.yokohamaymca.org/>

ナルコティクスアノニマス

薬物依存の当事者団体です。

内容:ナルコティクスアノニマス(以下、NAと称します)についてのパンフレット等を配布し、NAについて説明をしました。NAは1953年に創立され、現在131ヶ国で週に58,000以上のミーティングが開かれています。定期的にミーティングに参加し、私たちが提供する12ステップのプログラムを実践すれば、誰でも依存症から回復することが可能です。同じ回復途上の依存症者が集まれば、メンバー同士は助け合い、お互いを継続的に支援することができます。NAを通じて薬物抜き的人生が歩めるでしょう。

私たちの団体名を直訳すると[薬物・匿名]という意味になりますが、決して特定の薬物だけに焦点を合わせている訳ではありません。NAでは、アルコールを含むどのような薬物も同じであると考えています。メンバーであるための費用は一切かかりません。また私たちはあらゆる政府機関、宗教団体、警察や精神科を含む医療機関など他の組織とは一切提携を結んでいません。依存症者の手助けをしたいと思う人と手を取り合い、世界中の依存症者に回復のメッセージが届き、それぞれの母国語と文化に適応したサービスが行き届くまで、この活動を続けたいと思っています。

連絡先: ナルコティクスアノニマスジャパンセントラルオフィス
〒115-0045 東京都北区赤羽1-51-3-301
TEL&FAX:03-3902-8859(FAXは24時間受付けています)
営業時間 毎週火曜 19時~21時 毎週土曜 13時~17時
E-mail:najapan.pi@gmail.com URL: <http://najapan.org>



横浜AIDS市民活動センター

エイズについて考え行動する皆さんを応援する横浜市の施設です。2010年より（公財）横浜YMCAが活動を受託しています。

内容：

- 昨年に続き好評のニュースレター「おーぷん」を拡大し、「特集 夏休みの前にこんな時どうする？」を掲示しました。高校での啓発に使いたいとの声をいただき、多くの方にみただけました。



- HIV/エイズ最新情報の「UPDATE！いくつ知っている？」と東京・大阪・沖縄・ロンドンの若者の声、HIV/エイズの意識調査を知ってもらいたいと「ACT AGAINST AIDSの冊子」の2点を中心に、性感染症、デートDVや性被害の電話相談窓口紹介カードを一緒に配布しました。
- 「センターマスコットキャラクター・コムちゃん」がひまわりの花とともに展示会場に出発しました。

連絡先：横浜AIDS市民活動センター
〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39尾上町ビル9F
TEL:045-650-5421 FAX:045-650-5422
E-mail:info@yaaic.gr.jp URL:https://www.yaaic.gr.jp/

ATAC & ABCD in NARA

奈良で結核と肺癌と乳癌を広めない様に活動しております。

内容：テーマ①：結核は他人事でない。

結核予防週間9月24日から30日

結核は日本の重大な感染症・初期症状は風邪とよくにています。注意が必要です。

テーマ②：禁煙に手遅れはない。

喫煙後30分は息から有害物質が出ています。

タバコを吸う人は嫌だという女子学生は61%である。

COPDが進行すると睡眠の質が悪くなる。

テーマ③：乳癌になる人はどんな人。

乳癌は早期発見すれば治ります。

第8回ピンクリボンアドバイザー認定試験の初級と中級が2019年12月8日にあります。

テーマ④：リンパマッサージは役に立ちます。

連絡先：代表者：畠山雅行 ATAC&ABCD in NARA
〒630-0121 奈良県生駒市北大和2-30-5
FAX:0743-78-9841 E-mail:m-hatake@m4.kcn.ne.jp



NPO法人 HIVと人権・情報センター

1988年に大阪で設立された全国規模の団体です。設立時から現在まで一貫して、感染経路やセクシュアリティを区別せず、等しく支援しています。社会的偏見の克服と共生を目標に掲げ、HIV/AIDSの総合的な問題解決に取り組んでいます。

内容:夏仕様のデコレーションを施したパネルで団体の活動内容を紹介しながら、各種啓発グッズの展示を行いました。毎年恒例の「HIVクイズ」は今回も実施し、3日間で190名の方々にチャレンジしていただきました。「HIVクイズ」は8問。それぞれの設問に対して「正しい」「正しくない」のどちらかに○をつけて解答していただく方式で、31%の方が全問正解されました。

クイズの設問で「HIVに感染したと思いがちな行為があったら、なるべく1週間以内に検査を受けた方が良い」(正解は「正しくない」)は約32%の方が誤答されていました。検査をできるだけ早く受けて身体の状態を知りたい!という気持ちは大事ですが、正確な結果を得るには90日必要なことをお伝えしました。(東京都など全国の一部自治体では60日で検査結果を保証する検査を実施しています)今回も「HIVクイズ」とおして多くの来場者の方々とコミュニケーションさせていただくことができました。最新情報をお伝えするのみならず、来場者の方々がこの文化フォーラムにどんな思いを持って来られたのかも伺い知ることができました。



連絡先: 特定非営利活動法人 HIVと人権・情報センター
〒101-0047 東京都千代田区内神田1-17-6 鹿島ビル2F
TEL:03-5259-0622 FAX:03-5259-0643
E-mail:info@npo-jhc.com <http://www.npo-jhc.com>

私立横浜雙葉中学高等学校 茶道部

中1～高3の部員が所属し、日々お点前のお稽古、着物の着付けの練習を積み、文化祭等で呈茶・発表しています。

内容:本校の発表会場入り口に「茶道部」の暖簾を飾り、会場内には部活の活動紹介の写真も展示させていただき、呈茶席を設けてお迎えしました。席におかけになったお客様の正面では、立礼(りゅうれい)という扇形の机を前に部員が椅子に座りながら抹茶をたてるお点前を披露している姿をご覧いただけるようにし、お茶室にいるような落ち着いた雰囲気の中で薄茶と和菓子を味わっていただけるよう工夫しました。

暑さ厳しい夏の1日ではありましたが、日頃あまりお抹茶を味わったり、お点前を見る機会の少ない方にも気軽に楽しんでいただけるコーナーとして、ほんのひととき安らぎの時間を提供できていたら嬉しいです。

今年は日曜日でしたが、約100名の方々に立ち寄りいただき、現役部員だけでなく参加した卒業生も、良い刺激になったと喜んでおりました。学校外での貴重なおもてなしの機会を頂き、部員・顧問一同深く御礼申し上げます。

連絡先: 私立横浜雙葉中学高等学校
〒231-8653 横浜市中区山手町88番地 TEL:045-641-1004



パネル展「広がるAIDS文化フォーラム」

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜 AIDS文化フォーラム in 京都 AIDS文化フォーラム in 佐賀
AIDS文化フォーラム in 陸前高田 AIDS文化フォーラム in 名古屋

内容：1994年に横浜で生まれたAIDS文化フォーラムが京都、陸前高田、佐賀へと広がりました。そして、2017年からは新たに名古屋が加わりました！

パネル展では主に各地の実施報告や次回開催のアピールを行いました。各地から届いた資料や啓発物品も好評でした。



ワークショップコーナー

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

内容：今年は「第26回AIDS文化フォーラム」と「UPDATE!いくつ知ってる？」壁装飾の前で、麦わら帽子にレッドリボンワークショップとマイシールのワークショップを行いました。

ペットボトルのふたを再利用した麦わら帽子は夏のAIDS文化フォーラム in 横浜にぴったりでした。昨年より小学生のボランティアが増え、来場者にかわいい声でレッドリボンを届けました。



イベントボランティア

今年度は小学生から大人まで、約75名の方がイベントボランティアとして、フォーラムの会場運営に協力をしていただきました。親子で参加してくれる小学生のボランティア、高校生などの10代のボランティアが増え、また、そんな若者たちをしっかりとサポートして下さる大人のボランティアの存在も心強かったです。

イベントボランティアの感想：

- ボランティアをすることが初めてだったので、どんなことをするのか不安だったけど、楽しく活動することができた。エイズについてよく知らなかった部分が多かったけれど、このボランティアを通して知ることができた。(10代 学生)
- 入場者の対応をしたり、受付のお手伝いをしたりと、ボランティアとしてやるべきことをきちんとやることができたのでよかったです。最初は年齢の違う仲間と活動するので緊張したけれど、仲間のがんばる姿を見て、自分も責任を持って活動しました。お昼を過ぎると、同じ他のボランティアの人と話せたので、楽しかったし、うれしかったです。(10代 高校生)
- ボランティアに関わりながらも、講座を受けることができ、知識を増やすことができました。また、一緒に活動したボランティアの方々には私よりも年上でしたが、やさしく接してくれて、ボランティア活動をして良かったと思いました。すごく楽しかったです。(10代 高校生)

交流プログラム

ネットワーキング・TEAパーティー

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

内容：毎年初日のプログラム終了後に設けられている企画。展示場のオープンスペースを使い、お茶とお菓子をつまみながら、和気あいあいと情報交換をします。

毎回ほとんどの参加者は初参加で、今年は複数の遠方からの参加者がいらっしゃいました。フォーラムを知ったきっかけは？初日参加してみてもうどうだった？そんな何気ない会話から始まり、メインはクイズのセッションへ。毎年好評のHIV/AIDSに関する「すきまミニ講座」講師・山田雅子さんの無茶ぶりに近い(?)クイズに回答、多くの正解を勝ち取った方には、オープニングセッション登壇者の方々の貴重なサイン色紙を差し上げました。

フォーラムの各講座を聴いた感想を話し合ったり、初対面だからこそ話せる悩みだったり、口に出すことで自分も相手も何かに気付ける、共通点が生まれる。今年のテーマ「話す」と「リアル」に！！を体感できるのが、このネットワーキング・TEAパーティーなのです。

最後はキリスト教牧師の平良愛香さんのキーボードによる即席リサイタルを堪能しました。

交流スペース

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

フォーラムの来場者、参加団体、ボランティアが交流できる自由スペースです。



全体会・閉会式

次のステップ、

AIDS文化フォーラム

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会



内容：今回のテーマであった「<話す>と<リアル>に！！」を軸にフロアの皆さんと3日間を振り返りました。自分の講座で話す体験をした人、ボランティアで参加しているいろいろな人の話を聴いたり交流し、<話して><リアルを感じた>人たちの言葉をみんなで共有しました。ちょうどこの日、誕生日を迎えたという来場者の方に岩室紳也氏からバースデーソングのプレゼント(かなりムチャぶり!)もあり最後は会場のみんが声を合わせて祝福するというとても温かい雰囲気になりました。そして、今後開催される名古屋、京都、陸前高田、(来年の)佐賀の開催予告の後、AIDS文化フォーラムin佐賀からつないできたレッドリボンの「たすき」に横浜の運営委員がメッセージを書き、次の開催地である名古屋の秘忍者ジミー・ハトリ氏の「肩」ならぬ「アタマ」(?)にたすきがバトンタッチされ閉会となりました。



来場者感想：

- 5年位前から毎年参加していますが、3日間、閉会式まで初めて参加しました。3日間学んだことを語れるように、リアルに話せるようになりたいなど改めて感じました。(神奈川県 30代 教育関係)
- フォーラムという名前なのにとってもアットホームで、すごく感動しました。また来年も参加したいと思いました。(千葉県 30代 自営)
- 色々な話を聞くことができ充実した時間を過ごすことができました。ありがとうございました。(神奈川県 10代 学生)



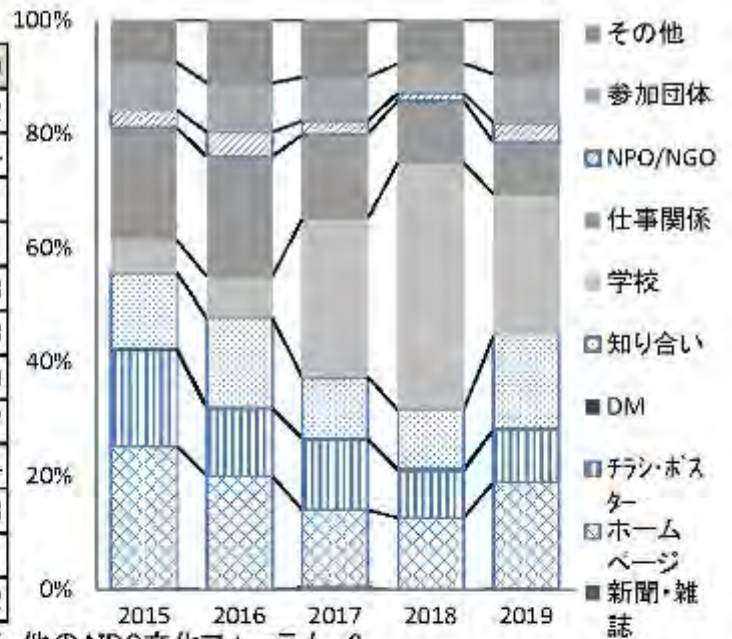
フォーラム全体集計表

全体集計推移 (2015~2019)

1. 何で知ったか

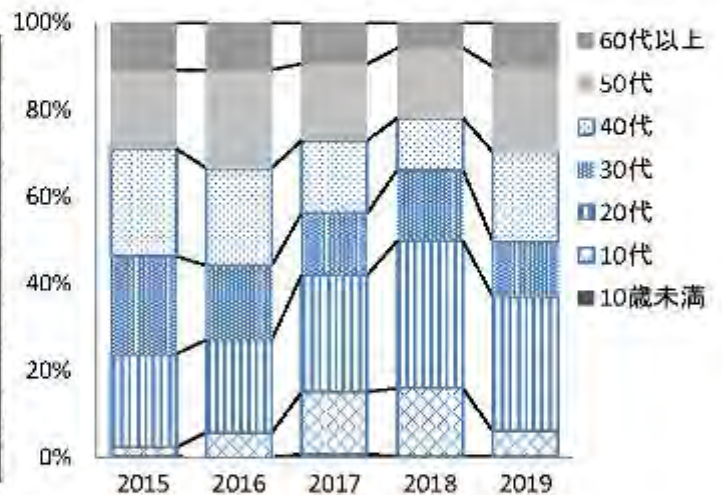
	2015	2016	2017	2018	2019
新聞・雑誌	3	1	4	0	2
ホームページ	289	198	153	205	204
チラシ・ポスター	194	119	139	134	101
DM	5	1	1	4	1
知り合い	154	157	121	169	178
学校	65	73	311	706	273
仕事関係	229	210	166	176	99
NPO/NGO	35	43	26	22	37
参加団体	96	86	86	83	94
その他	87	110	112	124	103
無記入					
計	1157	998	1119	1623	1092

※その他: SNS 26、関係者・登壇者の講演等 25、他のAIDS文化フォーラム 2



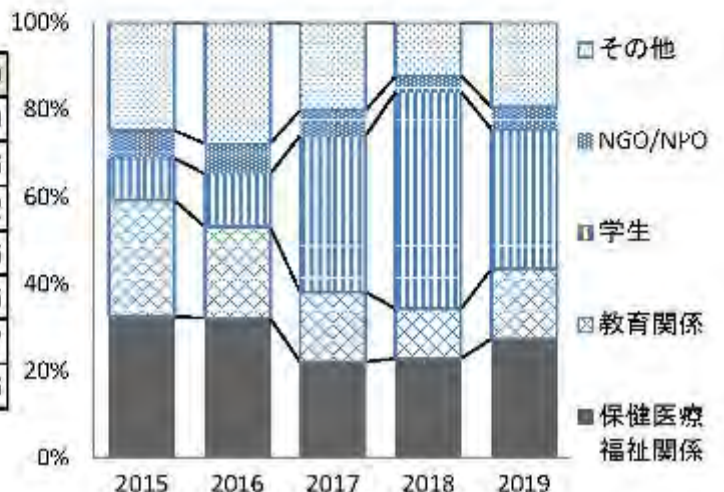
2. 年齢

	2015	2016	2017	2018	2019
10歳未満	2	1	9	5	2
10代	20	47	140	227	55
20代	197	177	264	491	286
30代	206	142	139	237	118
40代	226	186	164	173	190
50代	166	187	173	233	182
60代以上	100	90	93	85	94
無記入	10	6	17	8	12
計	927	836	999	1459	939



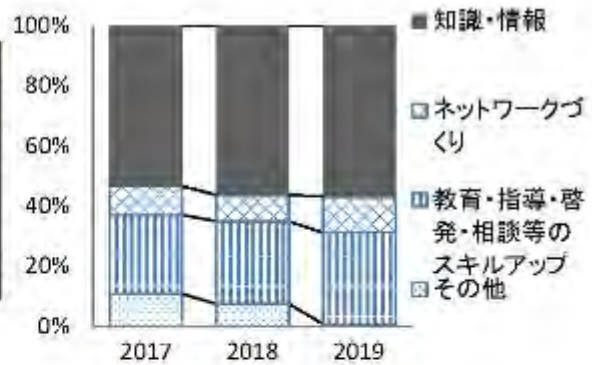
3. 職業等

	2015	2016	2017	2018	2019
保健医療福祉関係	296	263	215	329	249
教育関係	242	172	155	165	146
学生	88	99	349	717	292
NGO/NPO	58	57	56	53	46
その他	225	227	196	176	176
無記入	18	18	28	24	27
計	927	836	999	1464	936



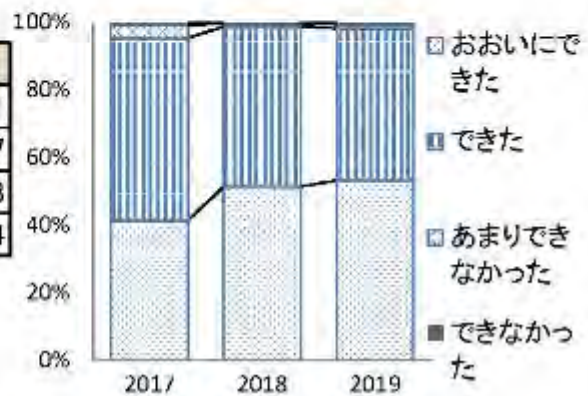
5. 来場目的

	2017	2018	2019
知識・情報	672	1063	747
ネットワークづくり	119	166	157
教育・指導・啓発・相談等のスキルアップ	330	518	399
その他	135	140	10



7 来場目的は達成したか

	2017	2018	2019
おおいにできた	302	512	351
できた	395	473	297
あまりできなかった	28	9	8
できなかった	6	3	4



2019年参加者の居住地 (都道府県別)

地域	都 道 府 県								小計
	北海道	青森	岩手	秋田	宮城	山形	福島		
北海道・東北	7	6	5		3		5		26
関東	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川		741
		2	21	28	39	150	501		
中部1	新潟	富山	石川	福井	山梨				12
中部2	長野	岐阜	愛知	静岡					38
	5	4	12	17					
近畿	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山		45
	9	13		10	5	8			
中国	鳥取	島根	岡山	広島	山口				0
四国	徳島	香川	愛媛	高知					0
九州・沖縄	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	3
							3		
海外									
合計	21	25	38	55	59	158	509	0	865

AIDS文化フォーラム in 横浜 26回の歩み - 開催概要と経緯 -

AIDS文化フォーラム in 横浜は、「HIVの感染経路を問わず、HIV/AIDSのみならず、社会を取り巻く状況を、多様に、文化の視点で考えていく」を特徴に26回歩み続けています。

組織委員会:HIV/AIDSに取り組む団体で構成し、フォーラムの社会的責任を負う

運営委員会:HIV/AIDSに関わる、医療関係者、教育関係者、NPO・NGO、行政の担当者等が個人として参画

事務局:横浜YMCA ボランティア:会場運営に市民ボランティアの公募—小学生から70歳代までの幅広い参加—

第1回(1994年)～第8回(2001年) 開催概要

開催年	回数	テーマ	プログラム数	参加団体数	会場	入場者数	開催日数	話題/社会	来場者傾向
1994	1	市民と海外NGOによる AIDS会議	58	40	神奈川県 国際交流協会	4,305	9日間	市民のエイズ会議 国際AIDS会議開催	地元市民 中心
1995	2	ともに生きる	31	26		2,200	3日間	母親が語る薬害エイズ 薬害報道の増加	
1996	3	ともに生きるから連帯へ	34	28		1,600		性風俗とAIDS 薬害/薬害和解	
1997	4	未来へのつどい	72	56	かながわ県民センター	4,607		映画・秋桜 カクテル療法	全国から 参加
1998	5	エンパワーメント～ 自立と協働に向けて	76	50		5,694		TV・神様もう少しだけ 障がい者認定	
1999	6	いまを生きる	70	47		3,240	複数作家の写真展 ピル解禁・感染症予防法		
2000	7	いま一人ひとりができること	64	49		3,801	女性プログラム 女性用コンドーム・薬物乱用	医療・教育 の 専門職増加	
2001	8	いま一人ひとりができること	72	52	3,946	バリアについて考える ハンセン病に学ぶ			

第1回(1994年)～第8回(2001年) 主な内容

第1回～第3回

市民による市民に開かれた手弁当フォーラム!

高額な参加費がかかる医療関係者中心の第10回国際エイズ会議(横浜)に対して、市民のためのエイズ会議を市民の手で実施しようという趣旨で始めました。

AIDS文化フォーラム

日本エイズ学会主催
エイズ文化フォーラム
第1回(1994年)～第8回(2001年)

エイズ文化フォーラム
第1回(1994年)～第8回(2001年)

エイズ文化フォーラム
第1回(1994年)～第8回(2001年)

エイズ文化フォーラム
第1回(1994年)～第8回(2001年)

エイズ文化フォーラム
第1回(1994年)～第8回(2001年)

エイズ文化フォーラム
第1回(1994年)～第8回(2001年)

エイズ文化フォーラム
第1回(1994年)～第8回(2001年)

エイズ文化フォーラム
第1回(1994年)～第8回(2001年)

エイズ文化フォーラム
第1回(1994年)～第8回(2001年)

エイズ文化フォーラム
第1回(1994年)～第8回(2001年)

エイズ文化フォーラム
第1回(1994年)～第8回(2001年)

エイズ文化フォーラム
第1回(1994年)～第8回(2001年)

エイズ文化フォーラム
第1回(1994年)～第8回(2001年)

エイズ文化フォーラム
第1回(1994年)～第8回(2001年)

エイズ文化フォーラム
第1回(1994年)～第8回(2001年)

エイズ文化フォーラム
第1回(1994年)～第8回(2001年)

エイズ文化フォーラム
第1回(1994年)～第8回(2001年)

エイズ文化フォーラム
第1回(1994年)～第8回(2001年)

エイズ文化フォーラム
第1回(1994年)～第8回(2001年)

■第1回(1994年) : 社会の中で偏見と差別のみ語られていたAIDSという病気に対し、ボランティアの働きによる新しい市民レベルの社会へのアプローチとして当時高い評価を得ました。

■第2回(1995年)～第3回(1996年) : 「第1回での成果を一過性のものに終わらせること無く、継続して欲しい」というAIDSに関わるNGO等からの強い要望があり開催を継続してきましたが、社会的な関心の薄れと共に、参加者数の減少など様々な課題が明らかになりました。

第4回～第6回

新たな工夫と挑戦へ!～量から質へのシフト

徹底した評価・検証の中で、より積極的な取り組みを行いました。会場をかながわ県民センターへ変更したことに加え、運営体制の見直し、そして参加者のニーズにあうようにプログラムの充実化を図りました。

■第4回(1997年) : 「PWA (People with AIDS) のネットワーク」をテーマとし、PWA5名がプレゼンターとなるなど、HIV陽性者の方々の積極的な協力がありました。

■第5回(1998年) : 治療薬が増え、HIV感染は慢性疾患になったと言われ始めました。テレビドラマ「神様、もう少しだけ」がヒットし、社会的関心が高まり、主演の深田恭子さんも来場しトークを行いました。

■第6回(1999年) : 1日のコマ設定を4コマから3コマに減らしたことで、各コマとも落ち着いた議論と交流が可能となりました。

第7回～第8回

専門職来場者の増加～継続することの意味を確認

従来からの「専門職が一般市民を指導・教育・啓発する」という発想を超えて、「市民側から専門職に情報交換の場と市民の手法を学ぶ場を提供していく」というように逆転してきました。全国の医療や教育の専門家からも期待される横浜の夏の恒例行事として定着しました。

■第7回(2000年) : 恋人とのセックスでHIVに感染した北山翔子さんやタレントの岡田美里さんのトーク、女性用コンドーム、ピル、と「女性」をテーマとしたプログラムが多く組まれました。

■第8回(2001年) : パラリンピック金メダリストの成田真由美さんとHIV陽性者の桜屋伝衛門さんのトークを通して「障がい」という視点でHIV/AIDSの問題を改めて考える機会となりました。

第9回(2002年)～第17回(2010年) 開催概要

開催年	回数	テーマ	プログラム数	参加団体数	会場	入場者数	開催日数	話題/社会	来場者傾向
2002	9	つながるつながる	81	56	かながわ県民センター	4808	3日間	国際NGO・国際神戸会議 SARS	国際NGO等 幅広く拡大
2003	10	AIDSこれまでの10年、 これからの10年	74	55		4624		10年の振り返り 国際エイズ会議の延期	
2004	11	いのち ～市民が続けるAIDSへの取り組み	83	66		6031		若者の参加 国際エイズ・バンコク会議	
2005	12	つながる空間	74	60		5509		アジア太平洋地区エイズ・ 神戸会議	
2006	13	つながる空間 ～Living Together～	72	56		3880		第20回日本エイズ学会会長 に池上千寿子さん	文化的 側面からの アプローチ 増加
2007	14	つながる	71	56		3689		かながわレインボ-センター-SHIP が横浜西口にOPEN	
2008	15	つながる ～いま、私にできること～	75	60		4170		アフリカ会議横浜で開催	
2009	16	他人ごと?!	55	54		3547		新型インフルエンザ 政権交代	
2010	17	他人ごと??	52	52		3296		猛暑 1ドル80円台	

第9回(2002年)～第17回(2010年) 主な内容

第9回～第12回



■第9回(2002年)：自らカンボジアなどでボランティア活動をしている有森裕子さんの話に多くの人が勇気付けられました。

先進国で唯一エイズ患者が増え続ける日本の状況を憂慮し、若者へのアプローチを強化しました。若者主体の企画や演劇・映像・音楽・アートを活用した、若者を引きつける会場運営を心がけた結果、多くの来場者を迎えることができました。

■第10回(2003年)：脚本家の早坂暁さんが「HIV/AIDSを題材に番組を制作するとしたら」という設定で、俳優の鳥丸せつ子さんと参加者と共にドラマストーリーを考えました。また、若者の覚醒剤問題に体を張って取り組む水谷修さん(夜回り先生)の講演に多くの参加者が集まり、関心の高さがみられました。

■第11回(2004年)：飯島愛さんを迎えて、エイズ・愛・セックスについてのトークショーを行いました。愛さんの明るいキャラクターと会場参加型の企画に大いに盛り上がりしました。



■第12回(2005年)：飯島愛さんと北山翔子さんがそれぞれの実体験をもとに人を愛すること、そして生きることをテーマに語られた言葉は、来場者の心に深く響きました。また、会場ボランティア数は110名と過去最高でした。

第13回～第17回

つながる空間、「他人ごと」から「本音の対話」へ

ネットワークを広げ連携を深めるために、HIV/AIDSに関する様々な活動に携わる団体・個人との対話の場が増えました。その中で宗教や立場・活動・体験は違っても、豊かに共に生きることを教えられ、「つながる」ことの大切さを確認することができました。

■第13回(2006年)：「エイズと宗教を語る」では、仏教、キリスト教、HIV陽性者の3者がそれぞれの立場から違いを超えて「つながる」ことの大切さを語りあいました。また、参加者から発表者となった医大生の遠見才希子さんがピア講座を担当するなど若者の活躍がみられました。日本エイズ学会の会長に、NPOの代表の池上千寿子さんが就任した、画期的な年でした。

■第14回(2007年)：3名のHIV陽性の当事者がそれぞれの主治医とともに、患者と医療者の関係性(パートナーシップ)をテーマに語り合いました。長年にわたるエイズ医療に共に取り組むためにはコミュニケーションやカウンセリングを通して信頼関係を構築することが重要であると訴えました。

■第15回(2008年)：教育関係のニーズに応え15もの教育を視点としたプログラムが開催されました。中でも学校でのエイズ教育を念頭においたセッションをエイズ教育シリーズとして紹介し、最終日に「徹底討論～エイズ教育に求められるものは何か」では、本音で意見を交わしました。

■第16回(2009年)：正しい知識だけでは予防ができません。HIV/AIDSを他人事(ひとごと)と思っていた当事者たちの声に耳を傾け、医療関係者が、教育関係者が、宗教関係者が、そして参加者の一人ひとりがつながる中で、自分自身の課題と考える第一歩を踏み出しました。

■第17回(2010年)：妊娠時にHIV感染がわかった石田心さんがトークセッション。閉会式は5年前のフォーラムでピアエデュケーションに目覚め、今や全国を飛び回っている遠見才希子さんが、医学生最後の年に司会を務めました。



第18回(2011年)～第26回(2019年) 開催概要

開催年	回数	テーマ	プログラム数	参加団体数	会場	入場者数	開催日数	話題/社会	来場者傾向
2011	18	エイズの何を知っていますか? ～変わる常識～	64	44	かながわ県民センター	3,255	3日間	東日本大震災 福島原発事故	被災地でも つながりが
2012	19	AIDS??文化?? ～仲間 新発見!～	69	53		3,184		横浜で 第26回日本エイズ学会	専門職 の増加
2013	20	これまでの20年 これからの20年	70	56		4,278		20年の積み重ねが京都、 そして陸前高田につながる	参加者増 で賑わう
2014	21	未来につなぐ新たな船出	69	56		4,165		21年目の新たな船出 佐賀に広がる	心機一転
2015	22	今こそ、ともに生きる	67	54		3,701		LGBTの権利拡大 渋谷区条例、文科省通知	交流拡大
2016	23	つながる ひろがる わかちあう	66	55		3,542		相模原津久井やまゆり事件 薬物への関心	10代増加
2017	24	リアルとてどう	65	49		6,394		第31回日本エイズ学会(生島会長) AIDS文化フォーラム in 名古屋	入場者増加
2018	25	#リアルとつながる	62	47		5,355		記念切手作成 SNSでの新たな広がり	25周年
2019	26	<話す>と<リアル>に!!	58	45		4,347		YouTube配信(10.19現在456回再生) 各地のフォーラムが禿でつながる	ネットで つながる

第18回(2011年)～第26回(2019年) 主な内容

第18回～第21回

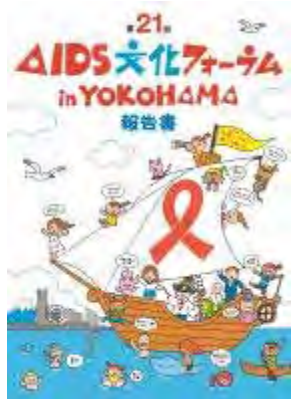
つながりが、絆がAIDS文化フォーラム in 横浜・京都・陸前高田・佐賀に

■第18回(2011年)：3月11日に東日本大震災があった中、オープニングでは陸前高田市の方々が被災地の状況を報告。10月には「AIDS文化フォーラム in 京都」開催。これまでのフォーラムを通してできたつながりが新たな絆につながっていくことを実感したフォーラムとなりました。

■第19回(2012年)：昨年のAIDS文化フォーラム in 京都への広がり。11月に開催された日本エイズ学会(横浜)とのつながり。改めてHIV/AIDSを文化の視点で考えさせられました。

■第20回(2013年)：陸前高田でもAIDS文化フォーラムが開催されることに。一区切りを迎える一方で、新たな時代への誓いをこころに刻み、この先も続けることをみんなで確認し合いました。

■第21回(2014年)：21年目に新たな船出となったAIDS文化フォーラムが佐賀に広がることに。継続する力は多くの人や地域からのサポートがあつてこそ実感!



第22回～第23回

つながる・ひろがる・わかちあう時代に

■第22回(2015年)：事務局が1階に移り、展示・交流スペースでの交流が活発に。予防啓発に加え、一人ひとりが生きていくために、いま、何が求められているかを、いろんな人たちと一緒に考える時代になりました。

■第23回(2016年)：つながりがひろがり、お互いの思い、課題をわかち合う中、熊谷晋一郎先生の「自立は依存先を増やすこと」に学び、病気や障がいを抱えている人だけではなく、一人ひとりの生き方、支え合い方を考えるフォーラムになりました。

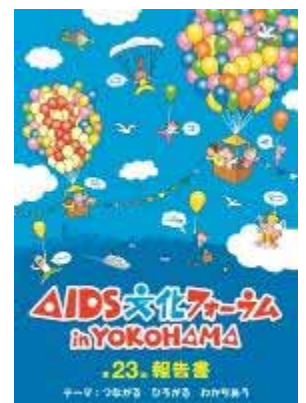
第24回～第26回

「リアル」がキーワード?

■第24回(2017年)：バーチャルなことが溢れる世の中になったからこそ、「リアルとてどう」大切さを再確認しました。その思いが結集すべく、SNS等も積極的に取り入れた結果、入場者数が一気に増えました。プレイス東京代表の生島さんが日本エイズ学会の会長に。AIDS文化フォーラム in 名古屋初開催。

■第25回(2018年)：気が付けば25年、四半世紀。当初からHIV/AIDSをとりまく様々な文化とつながり続け、「つながりから考える薬物依存症」という書籍も誕生するなど、HIV/AIDSに学び続けている人たちが集うフォーラムの成長を実感した年でした。

■第26回(2019年)：AIDS文化フォーラム in 横浜が当初から大事にしてきた「文化」というキーワード。今年にはリアルにHIV感染、同性婚、薬物使用、AVについて、一人ひとりが「話す」ことでこそ理解が進むことを実感することができました。



協賛・寄付 ご協力に感謝申し上げます

<p>ワイズメンズクラブ国際協会東日本区 〒160-0003 東京都新宿区本塩町7 日本YMCA同盟会館 TEL:03-5367-6652 URL: http://ys-east.jimdo.com/</p>	<p>ヴィーブヘルスケア株式会社 〒107-0052 東京都港区赤坂1-8-1赤坂インターシティAIR TEL:03-4231-5150 FAX:03-4231-5983 URL: http://glaxosmithkline.co.jp/viiv/index.html</p>
<p>神奈川県化粧品工業協会 〒235-0007 横浜市磯子区西町14-11 神奈川県総合薬事保健センター402 TEL:045-755-0323 FAX:045-755-2342</p>	<p>神奈川県製薬協会 〒235-0007 横浜市磯子区西町14-11 神奈川県総合薬事保健センター402 TEL:045-755-0323 FAX:045-755-2342</p>
<p>ギリアド・サイエンシズ株式会社 〒100-6616 東京都千代田区丸の内1-9-2 グラントウキョウサウスタワー16F TEL:03-6837-0055 (代表) 受付時間:9時~18時(土・日・祝日および会社休日を除く)</p>	<p>ジェクス株式会社 〒540-0012 大阪府中央区谷町2-3-12 TEL:06-6942-9002 FAX:06-6941-5234 URL: http://www.jex-inc.co.jp</p>
<p>ヤンセンファーマ株式会社 〒101-0065 東京都千代田区西神田3-5-2 URL: https://www.janssen.com/japan/</p>	<p>MSD株式会社 〒102-8667 東京都千代田区九段北1-13-12北の丸スクエア TEL:03-6272-1041 FAX:03-6238-9040 URL: www.msdc.jp</p>
<p>株式会社伊藤園 〒221-0862 横浜市神奈川区三枚町281-1 TEL:045-382-2833 FAX:045-382-2835</p>	<p>東京キリンビバレッジサービス株式会社 〒232-0064 横浜市南区別所1-9-24 TEL:045-741-0538 FAX:045-713-4265</p>
<p>株式会社ジャパンビバレッジセントラル 〒221-0864 横浜市神奈川区菅田町2774-1 TEL:045-473-9540 FAX:045-473-9448 URL: http://www.jbinc.co.jp</p>	

協賛企業展示

ジェクス株式会社

ベビー・衛生関係の商品を取り扱っている製造メーカー。



内容:性感染症予防にもなるコンドームをもっと身近に感じてもらえればとの思いでコンドーム・潤滑ゼリーなどをメインとした展示でAIDS文化フォーラム in 横浜に参加させていただきました。例年、こちらのフォーラムへ参加させていただいておりますが、来場者(お客様)と直接お話しをさせていただくことで新たな発見を知ることができています。また、コンドームといえば「エロ」と思われることも多いのですが、熱心にスタッフの話に耳を傾けてくださる方々が多く、性感染症予防の大切さや商品づくりに対する熱意などをお伝えさせていただくことができました。また、講義では性感染症の最新情報を学び、私達自身の知識のアップデートとなりました。その他にもネットやSNSが普及しデジタル化が進む時代の中でいかに正しい性感染症の情報やアダルト動画について知識を普及しなくてはならないと新たな課題も講義を受講し気づく点が多くありました。「メーカーとして私たちもまだまだできることがあるのだと」感じる貴重なフォーラムとなりました。ありがとうございました。

連絡先:ジェクス(株) 〒540-0012 大阪府中央区谷町2-3-12 TEL:06-6942-9002 FAX:06-6941-5234
E-mail: ayako-okazaki@jex-inc.co.jp
URL: <http://www.jex-inc.co.jp/>



2019 第26回AIDS文化フォーラム in 横浜を支えた人たち

主催 AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会

HIV/AIDS問題に取り組む団体の代表者で構成されています。「AIDS文化フォーラム in 横浜」を主催し、その社会的責任を負います。

◇公益財団法人横浜YMCA 田口努(組織委員長) ◇社会福祉法人横浜いのちの電話 松橋秀之
◇カトリック横浜教区 鈴木真 ◇ワイズメンズクラブ国際協会東日本区湘南・沖縄部 森田幸二郎

共催 神奈川県

毎年、共催として会場「かながわ県民センター」を提供しています。また、組織委員会、運営委員会にも列席し、関係者への参加依頼や広報をはじめとした事前準備にも協力しています。

担当:神奈川県健康医療局保健医療部健康危機管理課

助成金 公益財団法人エイズ予防財団

平成31年度エイズ予防財団助成金「エイズ予防に関する啓発普及事業」として、横浜、京都、陸前高田、佐賀、名古屋での「AIDS文化フォーラム」開催による普及啓発に助成していただきました。

後援

◇横浜市健康福祉局 ◇川崎市 ◇相模原市 ◇横須賀市 ◇藤沢市 ◇茅ヶ崎市 ◇横浜商工会議所
◇神奈川県教育委員会 ◇公益財団法人エイズ予防財団

企画運営 AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

フォーラムを運営するボランティアの集まりです。医師、保健師、教師、NGO/NPO関係者、アーティスト、共催の担当者、フォーラム大好きでずっと関わりを持っている人など、色々な立場の人がフォーラム開催に向けて年間を通して活動しています。

伊東和子、猪谷亜子、岩室紳也、大江浩、大塚英彦、糟谷潤、金井多恵、熊谷洗介、桜屋伝衛門、佐藤睦、千代木ひかる、畠山雅行、彦根倫子、三宅晶子、宮崎豊久、母袋秀典、矢部尚美、山田雅子、吉永陽子、渡辺誠二

イベントボランティア(会場ボランティア) (小学生～大人)

新井恵奈、加藤愛果、加藤歩夏、小嶋亮輝、志賀海斗、白石克樹、神愛佳、杉山詩織、須藤風音、野村優駿、萩原正揮、太中直子、細川もなみ、細川悠吾、本間誠大、松田美波、村田匠吾、山崎亜矢、山崎優実、山崎颯 他 合計54人の皆様、ありがとうございました！

カメラボランティア

大竹啓文、熊谷健太郎、長澤勲、福間健太郎

事務局 横浜YMCA

組織委員会、運営委員会の円滑な運営、年度を超えての継続的な開催を補佐します。26年前にフォーラムを立ち上げる際の呼びかけ人となった横浜YMCAが継続して事務局を務めています。

担当:横浜YMCA 国際・地域事業 高村文子、白井美穂



「AIDS文化フォーラム in 横浜」組織委員会規約

1. 名称

この会は「AIDS文化フォーラム in 横浜 組織委員会」と称する。
(以下、「組織委員会」と略す)

2. 趣旨

1994年8月に横浜で開催された第10回国際エイズ会議を機に、市民の手による全ての人に開かれた場として「AIDS文化フォーラム in 横浜」を開催してまいりました。回を重ねていく中で、全国各地でHIV/AIDSに取り組む各団体・個人の発表・交流の場として、また多くの市民、特に若い人々に向けての啓発の場として定着してまいりました。組織委員会は、このフォーラムの主催者として、偏見や差別をなくし、制度や利害の壁を乗り越えて、いつの時代にも、だれもが一人の人間としての尊厳を保ち、共に生きていく世界を築く事を目指して、市民の手による、市民のための、すべての人に開かれた集いを開催します。

3. 目的

- 1) 広く市民に開かれたフォーラムとする。
- 2) 若い世代、特に学生の参加を期待して、工夫する。
- 3) すべてがボランティアによる、市民の手による、市民のための、手弁当型のフォーラムとする。
- 4) AIDSボランティアと市民の交流の機会とする。
- 5) AIDSに日ごろから関係する団体やグループがフォーラムの進行をリードする。
- 6) AIDS関係団体、グループのネットワーク形成・交流の機会とする。
- 7) AIDSに関する多面的な啓発活動を行う。
- 8) AIDSについて、医学面や政策面のみではなく、文化面から積極的に捉える。
- 9) AIDSへの様々な取り組みの中で、一人ひとりが共に生き、連帯し、未来への希望をつなぐために力をつける(エンパワーメント)集いとする。

4. 構成

組織委員会は、エイズ問題に関心を持つ諸団体の代表者で組織する。

5. 委員長

委員長は、組織委員会の中から互選により選出し、組織委員会を代表する。

6. 組織委員会の開催

組織委員会は年4回、委員長の招集により開催する。また、必要に応じて委員長が必要と認めた場合に開催することができる。

7. 組織委員会の役割

「AIDS文化フォーラム in 横浜」開催の主催者となり、このフォーラム開催に関して最終責任を負う。

8. 運営委員会の設置

組織委員会の下に運営委員会を設置し、フォーラムの企画運営を委託する。組織委員会は運営委員会の働きを監督、支援する。運営委員は、HIV/AIDS問題及びフォーラムに関わるボランティアメンバーの中から選出する。

9. 事務局の設置と役割

組織委員会の事務局を横浜YMCA内に設置する。

常設の事務所を横浜YMCAに設置し、スタッフ2名が担当する。

事務局の役割は次の通りとする。

- 1) 組織委員会・運営委員会との連絡調整を行い、フォーラムの円滑な運営を助ける。
- 2) 予算を管理する。
- 3) 年度を越えての継続的な開催を補佐する。

10. 財政

フォーラムの運営に必要な経費は、組織委員会主催(運営委員会へ委嘱)の事業収益・寄付金、助成金及び組織委員会を構成する団体からのキーマネーをもってまかなうものとする。年度のキーマネーは、1団体につき20,000円とする。

11. 年度及び任期

組織委員会の年度は毎年4月から翌年3月までとする。

組織委員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。なお次年度の委員については、当年度最終の委員会で選出する。

12. その他

この規約に定めるものの他、組織委員会の運営に関して必要な事項は組織委員会の議を経て定めるものとする。

(付則) この規約は、2008年4月7日から施行する。

参加団体等名称・索引

名称順		アルファベット団体名	
アジアの女性と子どもネットワークP28	AIDS文化フォーラム in 京都P33
有馬祐子P25	AIDS文化フォーラム in 佐賀P33
岩室紳也P7,8,10,13,16,19,22	AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会P8,11,16,19,24,27,33,34,35,45
遠見才希子P10	AIDS文化フォーラム in 陸前高田P33
岡田ゆりかP16	AIDS文化フォーラム in 名古屋P33
水主川純P18	ATAC&ABCD in NARAP31
梶山祐輔P9	AV男優有志の会P25
かずえちゃんP8,11	JOINT & HEARTP9
カトリック中央協議会 HIV/AIDSデスクP27,28	NPO法人HIVと人権・情報センターP32
神奈川県健康医療局健康危機管理課P9,15,29	#なんでないのプロジェクトP14
神奈川県ユニセフ協会P29		
川島章代P20		
北山翔子P7,8,11,18		
コンドームソムリエAiP21		
斉藤肇P20		
佐藤郁夫P7		
佐野貴子P9		
椎名雄一P21,22		
しじみP22		
ジェクス株式会社P41		
思春期保健指導者研究会P18		
社会福祉法人横浜いのちの電話P12		
白阪琢磨P7		
私立横浜雙葉中学高等学校 茶道部P32		
新堂慎二P10		
瀬尾緑P15		
平良愛香P12,19		
田淵正浩P22		
塚本堅一P10		
特定非営利活動法人かながわ外国人すまいサポートセンターP17		
特定非営利活動法人パープル・ハンズP17		
友田安政P15		
ナルコティクスアノニマスP24,30		
認定NPO法人AIDSネットワーク横浜P15,18		
農澤沙央里P9		
長谷川博史P16		
古川潤哉P19,22,26		
ブルボンヌP16		
平成31年度厚労科研分担研究「HIVをはじめとする性感染症と妊娠に関する情報の普及啓発法の開発」班P23		
星野貴泰P21		
松本俊彦P10		
水谷修P24		
宮崎豊久P8,11,13,19		
村岡広代P9		
森林原人P19,22		
薬害エイズを考える山の手の会P26		
山田雅子P27		
横浜AIDS市民活動センターP11,31		
横浜YMCAP23,30		
横浜YMCA ACTP14		
吉村卓P22		
渡辺ふみこP15		



ネットワーキングパーティー

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

内容：フォーラム2日目の土曜日の夜、会場近く中華料理店で行われるのがネットワーキングパーティーです。初めて参加をする方も、毎年参加をしている方も、おいしい中華料理を食べながら、交流ができます。いろいろな方と話してみると、出身地や住んでいた地域、仕事や学校やボランティア活動など、何かしらのつながりを発見し、会場はより盛り上がっていきます。新たなネットワークが生まれ、これからの活動が広がっていくことを期待しています。



2019（第26回）AIDS文化フォーラム in 横浜 報告書

発行日： 2019年11月20日
発行者： AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会
編集： AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会
イラスト協力： もたいひでのり
連絡先： AIDS文化フォーラム in 横浜事務局
〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7横浜YMCA内
TEL：045-662-3721 FAX：045-651-0169
URL： <https://abf-yokohama.org/>
Facebook： <https://www.facebook.com/abfyokohama/>
E-mail： abf@yokohamaymca.org



第27回 AIDS文化フォーラム in YOKOHAMA

期間 2020 8/7(金) → 9(日)

会場 かながわ県民センター (横浜駅西口 徒歩5分)

参加自由
入場無料

あなたもフォーラムに 参加しませんか!!



団体として参加できます。

HIV / AIDS につながる視点をもった内容であれば、どなたでもご参加いただけます。講演・ワークショップ・展示・演劇など、発表形式は自由。例年多くの団体が、教育・若者・国際・HIVと共に生きる・医療といった多様な切り口で発表しています。詳しくはホームページやチラシ等をご覧ください。(募集開始4月頃)



ボランティア体験しよう!

イベントボランティアとして、フォーラムに参加しませんか?小学生から社会人の方まで、幅広い年齢層の方々がフォーラムの開催を支えています。ボランティア活動を通じて、新しい出会いや日常に役立つ知識が得られます。来年も、みんなでフォーラムを盛り上げましょう!



詳細はホームページをご覧ください! <https://abf-yokohama.org/>

 Facebook <https://www.facebook.com/abfyokohama/>

